

283
別庫
33

松江高等学校一覽
自大正十三年
至大正十五年



始



松江高等學校一覽

自
大正
十三年

283-33

松江高等學校一覽

自大正十三年

目次

○沿革略	一頁
○學年曆	三頁
○學則	五頁
第一章 總則	五頁
第二章 學年、學期、休業	六頁
第三章 學科課程、教授時數	七頁
第四章 入學、轉學、休學、退學、懲戒	七頁
第五章 成績考查、進級、卒業	一一頁
第六章 授業料	一四頁
第七章 寄宿及通學	一五頁
第八章 服制	一七頁

大正
12.11.15
内交

第九章 圖書、器械

生徒心得大綱

○細則

- 第一章 隨意科目及選擇科目
- 第二章 野外演習及射擊演習
- 第三章 入學、在學
- 第四章 編制
- 第五章 成績考查
- 第六章 授業料及寄宿料
- 第七章 通學及寄宿
- 第八章 服制
- 第九章 圖書

生徒心得
物品會計規程細則

○教授會規程

一七頁
一九頁
二〇頁
二〇頁
二二頁
二二頁
二三頁
二四頁
二八頁
二九頁
三二頁
三三頁
三六頁
三七頁
四三頁

○評議員會規程

○擔任教官規程

○校務分掌規程

○教官及事務員服務細則

○校醫服務規程

○處務細則

○職員

○前職員

○生徒

- 一 氏名
- 二 學科別
- 三 原籍別
- 四 年齡調
- 五 在學中死亡者

四四頁
四四頁
四五頁
五四頁
五六頁
五七頁
六四頁
七三頁
七三頁
七三頁
七三頁
九六頁
九六頁
九九頁
九九頁

○關係法令

- 一 高等學校令 一〇〇頁
- 二 高等學校規程(抄) 一〇四頁
- 三 文部省直轄諸學校官制(抄) 一二四頁
- 四 文部省直轄諸學校職員定員令(抄) 一二六頁
- 五 文部省直轄諸學校長職務規程 一二六頁
- 六 文部省直轄諸學校名譽教授ニ關スル件 一二八頁
- 七 官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程 一二八頁
- 八 高等學校高等科入學資格試驗規程 一三〇頁
- 九 專門學校入學者檢定規程 一三二頁
- 十 高等學校高等科學力檢定規程 一三三頁
- 十一 文部省直轄學校外國人特別入學規程 一三四頁
- 十二 外國人特別入學規程ヲ臺灣及朝鮮人ニ準用ノ件 一三六頁
- 十三 文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受ケタ
ル他ノ直轄諸學校入學試驗無効ニ關スル規程 一三六頁

附

錄

○校友會會則

- 十四 備外國人使用ニ關スル規程 一三六頁

- 一三六頁
- 一三七頁
- 一三七頁

松江高等學校一覽

自大正十三年

○沿革略

大正九年

十一月 勅令第五百五十一號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ヲ改正セラレ本校ヲ設置セラル

同月 勅令第五百五十二號ヲ以テ本校職員定員ヲ定メラル（校長一人、教授九人、書記四人）

十二月 第五高等學校教授小松倍一本學校長ニ任セララル

同月 文部省内ニ於テ事務ヲ開始ス

大正十年

一月 事務所ヲ島根縣立松江中學校内ニ移ス

三月 本校學則ヲ制定ス

同月 勅令第五十號ヲ以テ本校職員定員ヲ改正セラル(教授十六人)
四月 生徒二百名ノ入學ヲ許可ス
同月 入學式ヲ舉行シ島根縣立松江中學校校舍ノ一部ヲ使用シテ授業ヲ開始ス
同月 松江市南田町ニ自習寮ヲ開寮シ生徒四十八名ヲ收容ス
同月 細則ヲ定ム
六月 教育ニ關スル 勅語謄本ヲ拜戴ス
九月 圖書館ヲ開館ス
十月 天皇 皇后兩陛下御眞影並皇太子殿下御影ヲ拜戴ス
十二月 松江市外川津村本校新築校舍ニ移轉ス

大正十一年

二月 學則ノ一部ヲ改正ス
四月 自習寮ヲ本校構内新築寮舎ニ移シ生徒百二十名ヲ收容ス
同月 勅令第二百四號ヲ以テ本校職員定員ヲ改正セラル(教授二十四人、助教

授二人、書記五人)
五月 開校式ヲ舉行ス

大正十二年

四月 勅令第六十一號ヲ以テ本校職員定員ヲ改正セラル(教授三十人、助教
授五人、書記六人)
七月 學則ノ一部ヲ改正ス

○學年曆

大正十二年
四月一日 學年 始
同月五日 春季休業終
同月六日 第一學期授業始

同月十日	入學式
五月十八日	開校記念日
七月三日	第一學期授業終
同月十日	第一學期試驗終
同月十一日	夏季休業始
九月五日	夏季休業終
同月六日	第二學期授業始
同月二十四日	秋季皇靈祭
十月十七日	神嘗祭
同月三十一日	天長節祝日、拜賀式
十一月二十三日	新嘗祭
十二月十七日	第二學期授業終
同月二十四日	第二學期試驗終

同月二十五日 冬季休業始

大正十三年

一月一日 新年拜賀式

同月七日 冬季休業終

同月八日 第二學期授業始

二月十一日 紀元節拜賀式

同月二十五日 第三學年第三學期授業終

三月三日 第三學年第三學期試驗終、第一、二學年第三學期授業終

同月十日 第一、二學年第三學期試驗終

同月十一日 春季休業始

○學 則

第一章 總 則

第一條 本校ニ大正七年勅令第三百八十九號高等學校令及大正八年文部省令第八號ニ基ク高等科ヲ置ク

第二章 學年、學期、休業

第二條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第三條 學年ハ分ツテ左ノ三學期トス

第一學期 自四月一日 至八月三十一日

第二學期 自九月一日 至十二月三十一日

第三學期 自一月一日 至三月三十一日

第四條 休業日左ノ如シ

一、日曜日

一、春季休業 自三月十一日 至四月十日

一、開校記念日 五月十八日

一、夏季休業 自七月十一日 至九月五日

一、秋季皇靈祭

一、神嘗祭

一、天長節祝日

一、新嘗祭

一、冬季休業 自十二月廿五日 至一月七日

一、紀元節

第三章 學科課程、教授時數

第五條 學科課程及教授時數ハ高等學校規程ノ定ムル所ニ依ル

第六條 外國語ハ英語又ハ獨語トス

第四章 入學、轉學、休學、退學、懲戒

第七條 入學ノ期ハ學年ノ始トス

第八條 入學志願者ハ本校所定ノ名票ニ寫眞及檢定料金五圓ヲ添ヘ所定ノ期日迄ニ差出スヘシ

既納ノ檢定料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第九條 退學シタル者一箇年以内ニ於テ再入學ヲ願出ツルトキハ同一學年以下ニ限リ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ但シ第一學年ニ再入學ヲ願出ツルモノハ此ノ限ニ在ラス

他ノ高等學校生徒ニシテ退學シタルモノ本校ニ入學セムトスルトキハ選抜試験ヲ受クヘシ

第十條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ戶籍謄本、履歷書ニ入學料金三圓ヲ添ヘ差出スヘシ

指定期日迄ニ正當ノ事由ナクシテ前項ノ手續ヲ了セサルモノニ對シテハ入學ノ許可ヲ取消ス

既納ノ入學料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第十一條 入學許可ヲ得タルモノハ所定ノ期日迄ニ本校所定ノ在學證書(第一號書式)ヲ差出スヘシ

第十二條 保證人ノ住所身分等ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク届出ツヘシ

保證人死亡其ノ他ノ事由ニヨリ變更ヲ要スルトキハ速ニ其ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 本校ハ他ノ高等學校ヘ又ハ他ノ高等學校ヨリノ轉學ヲ許サス

第十四條 他學校ノ入學試験ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第十五條 科ヲ變更セムトスル者ハ選抜試験ヲ受クヘシ

前項ノ試験ヲ受ケムトスル者ハ前條ニ準シ其ノ手續ヲナスヘシ

第十六條 疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ三箇月以上修學スルコト能ハサル者保證人連署ノ上休學ヲ願出ツルトキハ其ノ學年ヲ限り之ヲ許可スルコトアルヘシ但シ疾病ニヨル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十七條 陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服シ若ハ召集ニ應スル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ間休學トス

第十八條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ初ヨリ原學年ノ課業ニ就クヘシ

前條ノ爲メ休學シタル者ハ服役滿期又ハ召集解除後一箇月以内ニ於テ原學年ノ課業ニ就クヘシ

第十九條 疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニヨリ退學セムトスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

但シ疾病ニヨル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二十條 左ノ各號ノ一ニ當ル者ニハ退學ヲ命ス

- 一、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 一、出席常ナラサル者

一、正當ノ理由ナク又届出ヲナサシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

一、引續キ一箇年以上缺席シタル者

一、引續キ二回同一學年ニ止マル者

但シ兵役ノ爲メ同一學年ニ止マル回数ハ之ヲ算入セス

一、所定ノ期限内ニ授業料又ハ寄宿料ヲ納メサル者

一、第十四條ノ手續ヲ經スシテ他學校ノ入學試験ヲ受ケタル者

其ノ他退學ニ關シテハ臨機ノ處分ヲナスコトアルヘシ

第二十一條 校規ヲ紊リ其ノ他生徒タルノ本分ニ背戾スル者ハ之ヲ懲戒ス

第二十二條 懲戒ハ分ツテ戒飭、停學、放校トス

第五章 成績考查、進級、卒業

第二十三條 學業成績ヲ分ツテ學期成績、學年成績、卒業成績ノ三トス

學期成績ハ學期毎ニ各學科目ニツキ平素ノ課業及試験ノ成績ヲ考查シ且ツ勤惰ヲ參酌シテ之ヲ定ム

但シ學科目ニヨリテハ其ノ全部又ハ一部ノ試験ヲ行ハサルコトアルヘシ
學年成績ハ各學期成績ノ和ヲ三ヲ以テ除シ之ヲ定ム

卒業成績ハ第一學年成績ノ二倍、第二學年成績ノ三倍及第三學年成績ノ五倍ノ和ヲ十ヲ以テ除シ之ヲ定ム

第二十四條 前條ノ成績表示ハ學期成績及學年成績ニアリテハ科目評點及平均評點ヲ以テシ卒業成績ニアリテハ平均評點ヲ以テス
但シ生徒ニ對シテハ符號又ハ概評ヲ以テ表示ス

第二十五條 評點ハ一百點ヲ以テ最高トス

第二十六條 某科目ノ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ其ノ科目ノ試験成績ヲ零トス但シ疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニヨリ某科目ノ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ當該學期間ニ於ケル平素ノ課業ノ成績及勤惰ヲ參酌シテ認定評點ヲ附與ス

第二十七條 左ノ各號ノ一ニ當ル者ニ對シテハ認定評點ヲ附與セス

一、停學ノ處分ヲ受タル爲メ試験ニ缺席シタル者

一、當該學年ニ於テ某科目ノ試験ニ缺席スルコト二回以上ニ及フ者

一、試験ニ缺席シタル事由ヲ一定ノ期日內ニ届出テサル者

一、當該學期ニ於テ某科目ノ教授總時數ノ五分ノ三以上缺席シタル者

第二十八條 父母、祖父母、兄弟姉妹ノ喪ニ服シ其ノ他非常ノ事情起リタル爲メニ

某科目ノ試験ニ缺席シタル者ニシテ當該學期間ニ於テ其ノ科目ノ教授總時數ノ五分ノ二以上出席シタル者ニハ追試験ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條ニヨリ休學シタル爲メニ試験ニ缺席シタル者ニ對シ亦同シ

第二十九條 學年成績ノ平均評點六十以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ル者ハ其ノ學年ノ課程ヲ修了シタル者トス

一、科目評點六十未満ノモノナキ者

一、科目評點六十未満ノモノ一科目アルモ其ノ評點四十以上ナル者

一、科目評點六十未満ノモノ二科目アルモ其ノ評點一ハ五十以上、他ハ四十以上ナル者

一、科目評點六十未満ノモノ科目總數ノ三分ノ一以內アルモ何レモ其ノ評點五十以上ナル者

第二十條 當該學年ニ於ケル缺席ノ日數、缺課ノ回數夥多ナル者ハ前條ニヨリ課程修了ノ資格アル者ト雖之ヲ原學年ニ止ムルコトアルヘシ

第三十一條 當該學年ノ課程ヲ修了セサル者ハ之ヲ原學年ニ止メ再ヒ各學科ヲ履修セシム

第三十二條 本校所定ノ全學科ヲ履修シタル者ニハ卒業證書(第二號書式)ヲ授與ス

第六章 授業料

第三十三條 授業料ハ一學年金五拾圓トシ左記ニヨリ分納スヘシ
但シ大正十年度ニ入學シタル生徒ニアリテハ一學年金四拾圓トス

大正十年度
入學者

第一學期分 金拾五圓 金拾貳圓

第二學期分 金貳拾圓 金拾六圓

第三學期分 金拾五圓 金拾貳圓

納付期日ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

既納ノ授業料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第三十四條 再入學ヲ許可セラレタル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヨリ之ヲ徵收ス

第三十五條 學期開始後ニ於テ退學スル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヲ徵收ス但シ退學

又ハ放校ヲ命シタル者ハ此ノ限リニアラス

第三十六條 在籍生徒ニ對シテハ如何ナル場合ニ於テモ授業料ヲ免除スルコトナシ

但シ兵役ノ爲メニシタル休學者ニ對シテハ授業料徵收期ノ前ニアリテハ次月分ヨ

リ其ノ後ニアリテハ次學期分ヨリ之ヲ徵收セス

兵役ノ爲メニシタル休學者學期ノ中途ニ於テ其ノ服役滿期又ハ召集解除トナリタ

ルトキハ當該學期分ノ授業料ハ其ノ月分ヨリ之ヲ徵收ス

第三十七條 前條ノ場合ニ於ケル授業料月割額ハ金五圓トス

但シ大正十年度ニ入學シタル生徒ニアリテハ金四圓トス

第一學期分授業料ノ月割額ニ關シテハ七月及八月ヲ算入セサルモノトス

第七章 寄宿及通學

第三十八條 新ニ入學シタル者ハ少クトモ一學年間自習寮ニ入ルヘキモノトス

但シ特別ノ事情アル者ニ對シテハ通學ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十九條 在寮生徒ノ寄宿料ハ一學年金拾五圓トシ左ノ三期ニ分納セシム納付期

日ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第一學期分 金四圓五拾錢

第二學期分 金六圓

第三學期分 金四圓五拾錢

寄宿料徵收期日後入寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヨリ、徵收期日前ニ退寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於ケル月割額ハ金壹圓五拾錢トス但シ第一學期分ノ月割額ニ關シテハ七月及八月ヲ算入セサルモノトス

既納ノ寄宿料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第四十條 通學生徒ハ每學期始業後一週間以内ニ必ス宿所ヲ届出ツヘシ

第四十一條 通學生徒轉宿シタルトキハ轉宿ノ日ヨリ一週間以内ニ其ノ宿所ヲ届出ツヘシ

第四十二條 通學生徒ノ宿所ニシテ不適當ト認メタル場合ニハ轉宿ヲ命スヘシ

第八章 服 制

第四十三條 生徒ハ本校所定ノ服裝ヲナスヘシ

但シ新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ入學ノ日ヨリ三十日間ハ前項ヲ適用セス

第九章 圖書、器械

第四十四條 本校ノ圖書ハ之ヲ圖書室ニ置ク

但シ授業上必要ノ圖書ハ各所屬教室ニ置クコトヲ得

第四十五條 圖書ヲ閲覽スルコトヲ得ル者ハ本校職員生徒其ノ他特ニ學校長ノ許可ヲ得タル者トス

第四十六條 本校ノ學術用器械ハ各所屬教室ニ置ク

第四十七條 圖書器械ニシテ學習上必要ナルモノハ之ヲ生徒ニ貸付スルコトアルヘシ

第四十八條 貸付ヲ受ケタル圖書、器械ハ之ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ許サス

第四十九條 本校ノ圖書、器械ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ修補セシメ或ハ同一ノ

物品ヲ以テ之ヲ償ハシメ或ハ修補料又ハ相當代價ヲ支拂ハシムルコトアルヘシ

本學則ハ大正十年三月十九日ヨリ之ヲ施行ス

書式

(第一號)

參錢收
入印紙

在學證書

私儀御校ニ入學御許可相成候ニ付テハ在學中校規嚴守可致保證人連署ノ上茲ニ在學證書及提出候也

年月日

科類 第 學年 組生徒

名 氏

生年月日

原籍

現住所

生年月日

右保證人 生徒トノ關係 職業 氏

松江高等學校長 氏

名殿

(第二號)

卒業證書

校印

府縣

名 氏

生年月日

右ハ本校高等科文(理)科ノ業ヲ修得セリ依テ之ヲ證書

年月日

松江高等學校長位勳 氏

名

校長印

番 號

生徒心得大綱

第一條 本校生徒ハ教育ニ關スル勅語ノ 聖旨ヲ服膺シ校規ニ遵由セムコトヲ期ス

ヘシ

第二條 本校生徒ハ常ニ眞摯剛健ノ校風ヲ振興セムコトヲ期シ特ニ左記ノ事項ニツ
キ最善ヲ致スヘシ

- 一、報國奉公ノ精神ヲ發揚スルコト
- 二、自發自治ノ習性ヲ涵養スルコト
- 三、協和愛敬ノ性情ヲ育成スルコト

○細則

第一章 隨意科目及選擇科目

- 第一條 入學ヲ許可セラレタル者ニシテ隨意科目ヲ履修セムトスル者ハ指定ノ期日
マテニ其ノ旨届出ツヘシ
- 第二條 隨意科目ハ學年ノ中途ヨリ之ヲ履修スルヲ許サス
一旦履修ヲ開始シタル者ハ其ノ學年中之ヲ止ムルコトヲ得ス
次學年ヨリ履修ヲ止メムトスル者ハ其ノ學年ノ終ニ於テ之ヲ届出ツヘシ
- 第三條 選拔試験ノ外國語ニ獨逸語ヲ選ヒタル入學者ニ對シテハ都合ニヨリ第二外
國語ヲ履修セシメサルコトアルヘシ

- 第四條 選擇科目(高等學校規
定第二十條)ノ履修ハ第二學年ノ終ニ於テ届出ツヘシ
- 第五條 選擇科目ハ學年ノ中途ヨリ之ヲ變更スルコトヲ得ス
- 第二章 野外演習及射擊演習
- 第六條 野外演習ハ第一學期ニ於テ一日間全部又ハ學年別ニ之ヲ行フ
射擊演習ハ狹窄及實包ノ二トシ第二學期中、期ヲ定メ之ヲ行フ
但シ實包射擊演習ハ第二學年以上ニ之ヲ課スルモノトス
- 第七條 演習費ハ每學年金壹圓トシ第一學期分授業料徴收期ニ於テ授業料ト同時ニ
之ヲ會計課ニ納付スヘシ
- 既納ノ演習費ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス
- 第八條 演習ハ參加スヘキ生徒總員ノ十分ノ三以上缺課スルカ若ハ特別ノ事情アル
トキハ之ヲ行ハサルコトアルヘシ
- 第九條 演習ヲ行ハサルトキハ翌年度ノ演習費ハ之ヲ減額シ又ハ徴收セサルコトアルヘシ

第十條 演習費ニ剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ翌年度ニ繰越スモノトス

但シ生徒全般ニ關スル緊切ナル事業ノ費用ニ充ツルコトアルヘシ

第十一條 演習費ニ不足ヲ生スルトキハ之ヲ追徴スルコトアルヘシ

第三章 入學、在學

第十二條 入學後ニ於テハ第一外國語ノ種類ヲ變更スルコトヲ得ス

第十三條 疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ由リ課業ニ缺席スル者ハ其ノ事由及時日

ヲ詳記シ缺席ノ第一日ヨリ三日以内ニ届出ツヘシ

疾病ノ爲ニ課業ニ缺席スルコト七日以上ニ及フトキハ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十四條 課業ニ缺課若ハ遅刻シタル者ハ前條ニ準シ手續ヲナスヘシ

第十五條 缺席、缺課、遅刻其ノ他ノ願、届書類ニハ擔任教官ノ檢印ヲ受クヘシ

擔任教官缺勤等ノ爲メ期間内ニ檢印ヲ受ケ難キ場合ニハ其ノ旨生徒課(教務課、庶務課等ノ分擔事務ニ關スル者ハ各其ノ課)ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

第十六條 戸籍ニ異動ヲ生シタル者ハ戸籍謄本ヲ添ヘテ速ニ届出ツヘシ

第十七條 陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服シ若ハ召集ニ應スル者ハ其ノ期間部隊若ハ艦艇名ヲ具シテ速ニ届出ツヘシ

第十八條 學則第十六條ニ依ル休學者、缺席日數及缺課回數ノ夥多ナル者、學業成績不良ナル者等ハ學則第十四條及第十五條ニ依ル願出ヲナスコトヲ得ス

第十九條 第三學期ニ於テハ休學ノ願出ヲナスコトヲ得ス

第四章 編制

第二十條 每學年ノ始、學級ヲ編制シ組ト稱ス

第二十一條 各組ニ總代各二名ヲ置ク

總代ハ其ノ組生徒ノ互選シタル四名ノ候補者中ニツキ學校長之ヲ命ス

第二十二條 總代ノ任期ハ一學年間トス但シ第一學年ニアリテハ第一學期及第二、

第三學期ノ兩期ニ分ツ

第二十三條 總代ハ擔任教官ノ指導ヲ受ケ其ノ組ニ關スル諸般ノ要務ニ任スルモノ

第五章 成績考查

第二十四條 學業成績評點科目數左ノ如シ

文科甲類

學科目	身	第一學年	第二學年	第三學年
國語及漢文	〇	國語講讀 文法作文 漢文講讀	國語講讀 文法作文 漢文講讀	國語講讀 文學史作文 漢文講讀
英語	二	其一 其二	同	同
獨語	(一)	日本史	東洋史 西洋史	西洋史
歷史	一	一	二	一
地理	一	一	二	一
哲學概說				
心理及論理			一	一
法制及經濟			一	一

數	自然科學	體操	計
一	生物及地質	一	九(10)
一	物理及化學	一	11(11)
一		一	10(11)

文科乙類

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
獨語	其一 其二 其三	同	同
英語	(一)	(一)	(一)
計	10(11)	11(11)	10(11)

理科甲類

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
國語及漢文	國語講讀 文法作文 漢文講讀	國語講讀 文法作文	國語講讀
修身	〇	一	一
計	二	一	一

學科目	評點科目數												
	英	獨	數	物	化	植物及動物	礦物及地質	心理	法制及經濟	圖	體	計	
第一學年	其一 一一	其二 一一	代 三角法 及 幾何 二	立 體 幾 何 二		植 物 一	一				一	11(111)	
第二學年	同	上	代 初等 解析 幾何 二	一	一	動 物 一					一	11(111)	
第三學年	同	上	微 分 及 積 分 初 等 力 學 一	一	一	講 義 同 實 驗 一	講 義 同 實 驗 一	講 義 同 實 驗 一	一	一	一	11(111)	

英	獨		計
	語	語	
(一)	其一 一一	其二 一一	11(111)
(一)	同	上	11(111)
(一)	同	上	11(111)

第二十五條 學期試驗ハ其ノ學期間ニ履修セル事項ニツキ之ヲ行フモノトス

但シ當該學期前ニ履修シタル事項ニ就テモ之ヲ行フコトアルヘシ

第二十六條 國語及漢文中ノ作文、物理、化學、植物及動物中ノ實驗、體操、第一學年ノ修身等ハ試驗ヲ行ハサルコトアルヘシ

第二十七條 每學期一回以上臨時試驗ヲ施行ス但シ日常ノ授業ニ於テ學習成績ヲ考查シ得ル學科目ニアリテハ此ノ限ニアラス

臨時試驗ノ成績ハ平常ノ學習成績ニ加算ス

第二十八條 學則第二十七條ニ依リ追試驗ヲ受ケムトスル者ハ次學期ノ始メマテニ願出ツヘシ

但シ親族ノ喪ニ丁リタル爲メニ試驗ニ缺席シタル者ハ願書ニ戶籍謄本ヲ添付スヘシ

第六章 授業料及寄宿料

第二十九條 授業料及寄宿料徴收期日ヲ次ノ通り定ム但シ期中ニ休業日アルトキハ順延ス

第一學期 四月二十六日ヨリ同二十八日マテ

第二學期 九月二十六日ヨリ同二十八日マテ

第三學期 一月二十六日ヨリ同二十八日マテ

已ムラ得サル事情ノタメ期日内ニ納付スル能ハサルモノニ對シテハ三日以内ヲ限リ徴收ヲ猶豫ス

第三十條 授業料及寄宿料ハ現金ヲ以テ納付スヘシ但シ病氣又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ他地方ニ在ル者ハ郵便爲替ヲ以テ納付スルコトヲ得

第三十一條 徴收期日以後ニ納付ノ義務ヲ生シタル授業料及寄宿料ハ其ノ義務ヲ生シタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第三十二條 第二十九條及第三十一條ノ期限内ニ授業料又ハ寄宿料ヲ納付セサル者

ニ對シテハ之ヲ納付スルマテ課業ヲ停止ス

第三十三條 課業停止ヲ命セラレタル日ヨリ二週間以内ニ授業料又ハ寄宿料ヲ納付セサル者ハ學則第二十條第七號ニ依リ退學ヲ命ス

第七章 通學及寄宿

第三十四條 自習寮生徒ハ規約ヲ定メ學校長ノ認可ヲ受ケ之ヲ實行スヘシ

規約ヲ以テ定ムヘキ事項左ノ如シ

一、寮内ノ秩序、風紀、衛生ニ關スルコト

一、炊事其ノ他必要ナル事項

第三十五條 新ニ入學シタル者ヲ收容シテ猶餘裕アル場合ニハ其ノ他ノ生徒ノ入寮ヲ許可スルコトアルヘシ

生徒ハ學年ノ中途ニ於テ入寮若ハ退寮スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アル者ニ限リ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十六條 退寮セムトスル者ハ其ノ事情ヲ記シ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ

但シ病氣ニ依リ退寮セムトスル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第三十七條 各室人員ノ配置ハ生徒監之ヲ定ム

第三十八條 各寮ニ總代一名及寮内ニ委員若干名ヲ置ク

總代ハ每學年ノ終ニ於テ次學年ニ在寮スヘキ者ノ選舉シタル若干名ノ候補者ニツ

キ學校長之ヲ命ス

委員ハ在寮生徒ノ互選トシ學校長ノ認可ヲ經テ就任ス

第三十九條 總代及委員ハ生徒監ノ指揮ヲ受ケ寮内諸般ノ要務ニ當ル

第四十條 總代ノ任期ヲ一學年間トシ委員ノ任期ヲ一學期間トス但シ再選スルコト

ヲ得

第四十一條 寮内ノ日課時限ハ生徒監之ヲ定メ學校長ノ認可ヲ受クヘシ

第四十二條 在寮生徒ニ對シテハ毎夜點檢ヲ行フ

病氣其ノ他ノ事故ニ依リ點檢ヲ受クル能ハサル者ハ豫メ生徒課ニ届出ツヘシ

第四十三條 時間外ノ外出ハ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ

第四十四條 門限ニ遅レタル者ハ翌朝遲滯ナク届出ツヘシ

第四十五條 外泊セムトスル者ハ豫メ生徒監ノ許可ヲ受ケ歸寮ノ際外泊先ノ證明書

ヲ差出スヘシ

外出中外泊スヘキ事情生シタルトキハ直ニ相當ノ方法ヲ以テ其ノ事由ト居所トヲ

届出テ歸寮ノ際外泊先ノ證明書ヲ差出スヘシ

第四十六條 歸郷又ハ旅行セムトスルトキハ日數及旅行先ヲ具シテ生徒監ノ許可ヲ

受クヘシ但シ春季、夏季及冬季休業中ハ此ノ限ニアラス

第四十七條 在寮生徒ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ種類又ハ症狀ニ依リ外泊又

ハ退寮セシムルコトアルヘシ

第四十八條 在寮生徒ニシテ停學ニ處セラレタル者ニハ退寮ヲ命ス

其ノ他一般寮規ニ違背スル言動ヲナシタル者ニハ學則第二十二條ノ懲戒ヲ加ヘ又
ハ退寮ヲ命ス

第四十九條 寮生以外ノ者ニシテ寮内ニ出入セムトスルトキハ生徒課ノ許可ヲ受ク

ヘシ

寮生ニ面會スルニハ應接室ニ於テスヘシ

第五十條 通學生ニシテ學則第四十條乃至第四十二條ニ違背シ若ハ事實ヲ虚構シタル者ニハ相當ノ懲戒ヲ加フヘシ

第八章 服 制

第五十一條 服制ハ左ノ通り定ム

一 正帽 黑色羅紗丸形

徽章ハ松ノ葉ニ「高」字ヲ加ヘタルモノ(眞鍮製金色)トシ横章白線三條(幅約二分)ヲ付ス

二 冬服 (一) 上着 濃紺色又ハ黑色、羅紗、ヘル又ハ小倉、背廣形詰襟、釦ハ

圓形内ニ「高」字ヲ表ハシタルモノ(眞鍮製金色)トシ襟章トシテ文科ハ「L」、理科ハ「S」(眞鍮製金色)ヲ左襟ニ付ス (二) ツボン普通製式、地質上着ニ同シ

三 靴 黑色、革、ツツク又ハゴム短靴(編上及深護謨ヲ含ム)

四 略帽 麥藁(縁約二寸高サ約三寸)鉢巻ハ海老茶地(幅約一寸八分)ニ白線(幅約二分)三條(間隔約二分)ヲ付ス

五 夏服 (一) 上着 藍鼠霜降、小倉、其ノ他ハ冬服ノ上着ニ同シ (二) ツボン普通製式、地質上着ニ同シ

六 脚絆 濃紺色又ハ黑色、木綿又ハ羅紗卷脚絆(但シ脚絆ハ體操ノ課業其ノ他特ニ指定シタル場合ノ外之ヲ着用セサルヲ常例トス)

第五十二條 制服ヲ着用スル能ハサル者ハ其ノ事由ヲ具シ生徒課ヲ經テ代服用ヲ願出テ許可ヲ受クヘシ

第五十三條 外出ノ際和服ヲ着用スル場合ニハ必ス制帽並ニ袴ヲ着用スヘシ

第五十四條 略帽及夏服ハ概ネ五月十六日ヨリ十月三十一日マテ着用スヘシ但シ體操ノ授業ヲ受クル場合ニハ略帽ヲ用フルヲ得ス

第九章 圖 書

第五十五條 生徒圖書ヲ閱覽セムトスルトキハ所定ノ閱覽用紙ニ所要事項ヲ記入シ

閲覧票ニ添へ係員ニ差出スヘシ

閲覧票ハ毎學年圖書課ニ於テ之ヲ交付ス

第五十六條 閲覧票ハ他人ニ轉貸スヘカラス若シ紛失シタルトキハ速ニ届出ツヘシ

第五十七條 一人一時ニ閲覧シ得ヘキ圖書ノ部數又ハ冊數ハ係員ニ於テ之ヲ制限スルコトアルヘシ

第五十八條 閲覧圖書ハ室外ニ携出スルコトヲ得ス閲覧ヲ了ヘタルトキハ直チニ返納スヘシ

第五十九條 圖書閲覧室ハ休日(日曜日ヲ除ク)ノ外毎日之ヲ開ク但シ臨時ニ之ヲ閉ツルコトアルヘシ

圖書閲覧時限ハ圖書課ニ於テ之ヲ定ム

第六十條 圖書閲覧室ニ入ル者ハ左ノ二項ヲ嚴守スヘシ

- 一、喫烟、音讀、雜談等凡テ他人ノ妨害トナルヘキ舉動ヲナササルコト
- 二、制服又ハ袴ヲ着用スルコト

第六十一條 圖書閲覧ニ關シ不都合ノ行爲アルトキハ期ヲ限り借覽ヲ停止ス

第六十二條 職員ハ係員ノ承認ヲ得テ書庫ニ入り借用セムトスル圖書ヲ檢索スルコトヲ得

第六十三條 職員ノ借用シ得ル參考用圖書冊數左ノ如シ但シ雜誌類ハ其ノ冊數ヲ制限セス

教官 二十冊

其ノ他ノ職員 五冊

和裝ノモノハ三冊ヲ以テ一冊ト見做ス

第六十四條 同一ノ圖書ハ一部ノ外借用スルコトヲ得ス

第六十五條 生徒夏季休業中圖書ノ借用ヲ願出ツルトキハ學校ニ必要アルモノヲ除キ一人二冊ヲ限り貸付スルコトアルヘシ

第六十六條 職員生徒以外ノモノニシテ本校圖書ヲ借覽セムトスル時ハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

生徒心得

- 第一條 教室内ニ於テ喫烟スヘカラス又吸殻ハ必ス唾壺ニ投棄スヘシ
- 第二條 建物又ハ器物ヲ毀損シタルモノニ對シテハ事情ニヨリ之ヲ辨償セシムルコトアルヘシ
- 第三條 學校ノ示達ハ揭示場ニ就キ承知スヘシ
- 揭示後三日ヲ經タルモノハ一般ニ知了シタルモノト見做ス
- 第四條 揭示ヲナサムトスル者ハ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 集會ヲナサムトスルトキハ之カ代表者タル者其ノ目的、時日、場所、會費等ヲ具シ前日マテニ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六條 集會ノ爲ノ校舍ヲ使用セムトスルトキハ教務課ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 校外ニ於ケル集會ハ風紀ヲ害シ多費ヲ要スル虞ナキ場所ニ於テ之ヲ開クヘシ
- 第八條 定期ノ集會ヲ創設セムトスル時ハ生徒監ヲ經テ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

之ヲ解散シタル時ハ直ニ届出ツヘシ

物品會計規程細則

- 第一條 本校ノ物品ハ物品會計規則並ニ文部省直轄各部物品會計規程ニ準據シ此ノ細則ニ依リ處理スヘシ
- 第二條 物品ハ學校長之ヲ管理ス
- 物品會計官吏ハ學校長ノ命令ニ依リ物品ヲ出納シ且之ヲ保管ス
- 第三條 物品ハ備品及消耗品ノ二種ニ區分シ備品中圖書ハ他ノ備品ト更ニ區分シテ之カ取扱ヲ爲スヘシ
- 備品ニシテ各所共用ノ目的ヲ以テ支給セルモノハ之ヲ共用備品トシ各自専用ノ目的ヲ以テ支給セルモノハ之ヲ専用備品トス
- 備品及消耗品ノ種別ハ各物品ノ受入命令ヲ發スル時ニ於テ學校長之ヲ確定ス但シ物品會計官吏其ノ種別ノ豫定ヲ必要ト認メタルトキハ種別決定表ヲ作製シ學校長ノ裁定ヲ受クヘシ

第四條 各課、各特別教室其ノ他必要ト認メタル部所ニ物品監守者及物品取扱主任ヲ置キ共用備品ノ監守並ニ消耗品取扱ノ責ニ任セシム但シ專用品ハ職員各自之ヲ監守シ其ノ責ニ任ス

前項各部所ニ於ケル監守者ノ監守區域ハ學校長別ニ之ヲ定ム

第五條 物品會計官吏ハ物品ノ請求書、出納命令書、受領證、支給票、監守票及返付票等所定ノ様式ニ基キ豫メ之ヲ作製シ必要ニ應シ第四條ノ職員ニ之ヲ配付スヘシ但シ一用紙ヲ以テ前段二種以上ヲ兼用スルコトヲ得

物品會計官吏ハ物品出納簿及備品支給簿ヲ、物品監守者ハ備品監守簿ヲ、物品取扱主任ハ消耗品受拂簿ヲ備ヘ物品ノ出納並ニ受渡アリタル毎ニ之ヲ記帳スヘシ前項ノ帳簿ハ左ノ如ク區分ス

備品出納簿

圖書出納簿

消耗品出納簿

備品支給簿

圖書支給簿

消耗品受拂簿

郵便切手受拂簿

備品監守簿

圖書監守簿

第六條 物品會計官吏ハ物品ノ出納、保管其ノ他取扱手續並ニ責任ノ歸屬ヲ明確ナラシムル爲メ前條ノ書類及帳簿ノミニテ不充分ト認メタルトキハ補助ノ書類又ハ帳簿ヲ用フルコトヲ得

物品監守者及物品取扱主任前項ト同一ノ理由アルトキハ物品會計官吏ノ承認ヲ經テ之ヲ用フルコトヲ得

第七條 生産及寄贈ニ係ル物品ハ價格ヲ評定シ總テ物品會計官吏ニ引繼クヘシ物品會計官吏前項ノ引繼ヲ受ケタルトキハ命令ニ基キ之ヲ處理スヘシ

第八條 物品ノ購入ハ各部所ノ請求ニ基キ物品會計官吏其ノ手續ヲ完了シ支給又ハ貯藏ノ處理ヲ爲スヘシ但シ備品ハ受入ト同時ニ番號ヲ付スヘシ
通常所用ノ物品ニシテ豫定數内ノ購入ヲ爲シタルモノハ隨時ノ請求ニ依リ之ヲ支給ス

第九條 物品會計官吏ハ第四條ニ依リ責任ヲ有スル職員ニ對シ物品ノ支給ヲ爲シ同時ニ受領ノ證印ヲ受クヘシ

第十條 物品會計官吏ハ物品ノ種類ニ依リ其ノ形狀若ハ仕様ヲ明確ナラシムル必要ヲ認メタルトキハ購入又ハ修理ノ請求書ニ圖面若ハ仕様書ノ添付ヲ要求シ又ハ請求者ニ對シ請負人ヲシテ直接説明セシムヘキコトヲ要求スルコトヲ得

第十一條 物品ノ亡失及毀損ニ關シテハ學校長之ヲ審査シ故意、過失、怠慢等ニ基クモノト認メタルトキハ文部省直轄各部物品會計規程第十二條及第十三條ニ依リ之ヲ處分ス

第十二條 物品會計官吏ハ左ノ事項ニ付注意ヲ要ス

- 一、物品ノ監守並ニ取扱ニ關シ帳簿ト現品ト符合スルヤ否ヤヲ調査シ其ノ符合セサル場合又ハ物品ノ使用上ニ關シ意見アルトキハ之ヲ學校長ニ具申スルコト
- 二、物品ノ亡失ヲ發見シタルトキハ直ニ學校長ニ具申スルコト
- 三、毀損ノ物品ハ前條ノ事由存スルヤ否ヤヲ調査シ其ノ事由存スルモノト認メタルトキハ學校長ニ之ヲ具申シ其ノ事由存セサルモノト認メタルトキハ修理ノ手續ヲ爲スコト
- 四、大破使用ニ耐ヘサル物品並ニ不用ニ屬シ將來使用ノ途ナキ物品ハ學校長ノ裁決ニ基キ賣却若ハ棄却スルコト

第十三條 物品監守者並ニ物品取扱主任ハ其ノ管掌ニ屬スル物品ニシテ亡失、毀損又ハ不用ニ屬シタルモノアルトキハ遲滯ナク左ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一、亡失ノ物品ニ關シテハ始末書ヲ作り物品會計官吏ヲ經テ之ヲ學校長ニ提出スルコト
- 二、毀損ノ物品ニシテ第十一條ノ事由存スルモノト認メタルトキハ前號ノ手續ヲ

爲シ其ノ事由存セサルモノト認メタルトキハ毀損ノ程度ヲ考查シ物品會計官吏ニ之ヲ返付スルカ若ハ修理ヲ請求スルコト

三、不用ニ屬シタル物品ハ物品會計官吏ニ之ヲ返付スルコト

物品會計官吏ハ前項各號ノ場合ニ意見アルトキハ口頭又ハ書面ヲ以テ學校長ニ之ヲ具申スルコトヲ得

第十四條 物品監守者相互間ニ於テ物品ノ監守換ヲ爲サムトスル場合ニハ當該物品ハ物品會計官吏ニ一先之ヲ返付シ更ニ之カ支給ヲ受クルノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 物品監守者並ニ物品取扱主任更迭ノ場合ニハ新舊兩者立會ノ上備品監守簿又ハ消耗品受拂簿(郵便切手受拂簿ヲ含ム)ニ基キ現品ト對照シ各帳簿ニ引繼ノ年月日ヲ記入シ各自署名捺印ノ上之カ引繼ヲ爲スヘシ

第十六條 物品ハ總テ物品會計官吏ノ承認ヲ經スシテ之ヲ貸付シ又ハ校外ニ搬出スルコトヲ得ス

第十七條 學校長ハ物品檢閲委員ヲ教授、助教授又ハ書記中ヨリ任命ス

檢閲委員二名以上任命スヘキ場合ニハ一名ヲ檢閲委員長ニ指名ス

第十八條 檢閲委員ハ檢閲ノ順序及日時ヲ定メ豫メ之ヲ物品會計官吏、物品監守者、物品取扱主任ニ通知シ檢閲ニ立會シムヘシ但シ專用品ニ關シテハ當該專用者ヲシテ立會シムヘシ

第十九條 檢閲ノ方法ハ檢閲委員之ヲ定ム但シ檢閲上特ニ左ノ事項ニ注意ヲ要ス

一、物品ノ出納、保管、監守、取扱及使用上ノ適否

二、帳簿ト現品トヲ對照シ之カ計數ノ正否

三、亡失、毀損物品ノ有無並ニ其ノ責任歸屬ノ調査

第二十條 物品檢閲完了シタルトキハ檢閲委員ハ其ノ狀況並ニ結果ヲ學校長ニ詳具スヘシ但シ檢閲委員二名以上アル場合ニハ各委員ノ報告ヲ統括シテ委員長之ヲ具申スヘシ

○教授會規程

第一條 教授會ハ教授、助教授及講師ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條 教授會ハ主要ノ事項ニ付諮詢ヲ要スルトキ學校長之ヲ召集ス

○評議員會規程

第一條 教授會員中ヨリ評議員若干名ヲ置ク

一 職務上ノ議員 教頭、幹事、生徒監及主監

二 互選議員 職務上ノ議員ト同數、任期一學年間

第二條 評議員會ハ諸般ノ事項ニ付諮詢ヲ要スルトキ學校長之ヲ召集ス

第三條 評議員會ニハ必要ニ應シ員外ノ職員ヲ列席セシムルコトアルヘシ

○擔任教官規程

第一條 擔任教官ハ當該組ノ學事ヲ督勵シ風紀ヲ維持シ所屬生徒ヲシテ學校ノ規則命令ヲ遵守セシムルコトヲ期スヘシ

第二條 擔任教官ハ學校ト所屬生徒ノ家庭トノ連絡ヲ圖ルヘシ

第三條 擔任教官ハ所屬生徒中怠惰又ハ不品行ノ者アルトキハ其ノ都度之ヲ訓戒シ

情狀重シト認ムルモノハ生徒監ト合議シ學校長ニ具申スヘシ

第四條 擔任教官ハ學校ノ命令、諭告ヲ當該組生徒ニ傳達スヘシ

第五條 擔任教官ハ所屬生徒ヨリ差出スヘキ宿所、轉宿、休學、退學其ノ他ノ願届書類ヲ審査シ正當ト認ムルトキ之ニ捺印スヘシ

第六條 擔任教官ハ成績表及出缺調査表ヲ審査スヘシ

第七條 擔任教官ハ當該組教室ノ整頓並ニ備品ノ保管ニ任スヘシ

○校務分掌規程

第一條 校務ヲ分掌スルタメ教務課、生徒課、圖書課、庶務課、會計課ノ五部ヲ置ク

第二條 教務課ニ教頭、圖書課ニ主監、庶務課ニ幹事ヲ置キ教授中ヨリ特命シテ學校長ノ命ヲ受ケ各其ノ課ノ事務ヲ主管セシム

第三條 生徒課ノ事務ハ生徒監中ヨリ特命シ學校長ノ命ヲ受ケテ之ヲ主管セシム

第四條 各學科ニ主任ヲ置キ教授、助教授、講師中ヨリ特命ス

學科主任ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ教頭ト協議ノ上該學科授業上ニ關スル事項ヲ主理ス

第五條 主任ヲ置ク學科別左ノ如シ

- 一 修身、心理論理、哲學概説
- 一 國語
- 一 漢文
- 一 英語
- 一 獨語
- 一 歷史、地理
- 一 數學
- 一 物理

一 化學

一 植物及動物

一 礦物及地質

一 圖書

一 法制及經濟

一 體操

第六條 各組ニ擔任教官ヲ置キ教授中ヨリ之ヲ特命ス

擔任教官ハ別ニ定ムル規程ニ依リ學校長ノ指揮ヲ受ケ教頭及生徒監ト協議ノ上當該組生徒ヲ指導スルモノトス

第七條 教務課ニ於テ管掌スヘキ事項左ノ如シ

- 一 教官ノ授業分擔及日課ノ配當ニ關スルコト
- 二 學科課程及教科用書ニ關スルコト
- 三 擔任教官ノ事務中教務ニ關スルコト

- 四 組ノ編成ニ關スルコト
- 五 成績考査ニ關スルコト
- 六 生徒出席簿ニ關スルコト
- 七 成績證明ニ關スルコト
- 八 生徒募集及選抜試験ニ關スルコト
- 九 生徒入學ニ關スルコト
- 十 野外演習及射擊演習ニ關スルコト
- 十一 高等科學力檢定試験及教員無試驗檢定ニ關スルコト
- 十二 生徒ノ學科課程履修ニ關スルコト
- 十三 教官ノ缺勤、早退、遲刻屆書類ニ關スルコト
- 十四 教室及教官室ニ關スルコト
- 十五 參觀人ニ關スルコト
- 十六 其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項

第八條 生徒課ニ於テ管掌スヘキ事項左ノ如シ

- 一 生徒取締ニ關スルコト
- 二 生徒ノ訓戒及懲罰ニ關スルコト
- 三 生徒ノ缺席、缺課、遲刻等ノ屆書類及統計ニ關スルコト
- 四 生徒ノ休學、退學ニ關スルコト
- 五 生徒ノ學籍ニ關スルコト
- 六 在學證明、品行證明及兵役ニ關スルコト
- 七 組總代ニ關スルコト
- 八 生徒通學及宿所ニ關スルコト
- 九 生徒ノ衛生及身體檢査ニ關スルコト
- 十 生徒ノ集會ニ關スルコト
- 十一 生徒ノ揭示ニ關スルコト
- 十二 生徒ノ入寮、退寮ニ關スルコト

- 十三 自習寮ノ警備及衛生ニ關スルコト
- 十四 自習寮ノ炊事監督ニ關スルコト
- 十五 生徒ノ學資ニ關スルコト
- 十六 式場整頓ニ關スルコト
- 十七 其ノ他生徒訓育及自習寮ニ關スルコト

第九條 圖書課ニ於テ管掌スヘキ事項左ノ如シ

- 一 圖書ノ保存及整理ニ關スルコト
- 二 圖書目錄ニ關スルコト
- 三 圖書貸付ニ關スルコト
- 四 圖書閱覽室ニ關スルコト
- 五 圖書購入ノ調査ニ關スルコト
- 六 其ノ他圖書ニ關スル事項

第十條 庶務課ニ於テ管掌スヘキ事項左ノ如シ

- 一 御眞影及勅語ノ保管ニ關スルコト
- 二 校長官印及校印ノ管守ニ關スルコト
- 三 職員ノ進退、身分及服務ニ關スルコト
- 四 職員ノ叙位、叙勳ニ關スルコト
- 五 職員ノ願、伺、届ニ關スルコト
- 六 僱外國人ニ關スルコト
- 七 規則、命令ニ關スルコト
- 八 學校一覽ニ關スルコト
- 九 官報報告其ノ他ノ報告ニ關スルコト
- 十 卒業證書ニ關スルコト
- 十一 文書ノ接受及發送ニ關スルコト
- 十二 公文書類ノ整理、保存ニ關スルコト
- 十三 寄附願ニ關スルコト

- 十四 儀式ニ關スルコト
 - 十五 宿直ニ關スルコト
 - 十六 評議員會ニ關スルコト
 - 十七 教授會ニ關スルコト
 - 十八 乘車乘船割引證ニ關スルコト
 - 十九 參觀人以外ノ外來者應接ニ關スルコト
 - 二十 其ノ他他課ニ屬セサル事項
- 第十一條 會計課ノ管掌スヘキ事項左ノ如シ
- 一 歲入歲出ノ豫算、決算及出納ニ關スルコト
 - 二 資金ニ關スルコト
 - 三 官有財産ニ關スルコト
 - 四 物件ノ買入、賣拂、貸借及修理ニ關スルコト
 - 五 土地建物ノ營繕ニ關スルコト

- 六 物品ノ出納及保管ニ關スルコト
 - 七 保管證書ニ關スルコト
 - 八 傭人ニ關スルコト
 - 九 物品檢閲ニ關スルコト
 - 十 校内ノ警備及衛生ニ關スルコト
 - 十一 電話、電燈、水道及暖爐取扱ヒニ關スルコト
 - 十二 會計ニ屬スル公文書類ノ整理及保存ニ關スルコト
 - 十三 其ノ他會計ニ關スル事項
- 第十二條 各課ニ主任ヲ置ク
- 主任ハ上官ノ命ヲ受ケ其ノ課ノ事務ヲ掌ル
- 第十三條 課員ハ主任ノ指揮ヲ受ケ其ノ事務ニ従事ス
- 第十四條 各課職員ハ時宜ニヨリ互ニ他課ノ事務ヲ補助スヘシ

○教官及事務員服務細則

- 第一條 新任ノ者ハ五日以内ニ履歷書及住所届ヲ差出スヘシ爾後住所ヲ轉シタル時モ亦同シ
- 第二條 轉免ノ際ハ取扱書類其ノ他所管ノ引繼ヲナスヘシ
- 第三條 近火又ハ事變アルトキハ速ニ登校シ臨機ノ處置ヲナスヘシ
- 第四條 疾病其ノ他ノ事故アリテ出勤シ難キ時ハ當日出勤時限前ニ其ノ事由及缺勤ノ日限ヲ届出ツヘシ若シ疾病ノ爲ニ缺勤七日ヲ過クレハ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添付シ爾後十五日毎ニ同様ノ手續ヲナスヘシ
- 遅刻、早退ノ時モ亦前項ニ準シ手續ヲナスヘシ
- 第五條 父母ノ祭日ニ休暇ヲ得ムトスル者ハ其ノ前日届出ツヘシ
- 第六條 轉地療養若ハ父母ノ看病ノ爲ニ休暇ヲ得ムトスル者ハ願書ニ其ノ日限及行先地名ヲ明記シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ許可ヲ受クヘシ但シ父母ノ看病ノ場合ハ信

書又ハ電信ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

- 第七條 休業中旅行セムトスル者ハ其ノ日限及行先地名ヲ記載シタル届書ヲ出發前ニ差出スヘシ

第八條 出張ヲ命セラレタル者ハ出發及歸校ノ日ヲ届出ツヘシ

復命書ハ歸校後五日以内ニ差出スヘシ但シ簡單ナル事項ハ口頭ヲ以テスルコトヲ得

第九條 喪ニ丁リタル者ハ死者トノ關係及忌服、遠慮ノ日數ヲ詳記シ届出ツヘシ

第十條 事務員ハ毎日定時マテニ登校シ出勤簿ニ捺印シテ執務スヘシ

第十一條 事務員ハ學校長退出後ニ退出スヘシ

第十二條 事務員ハ交互ニ宿直スヘシ

第十三條 宿直ハ午後三時ヨリ翌日午前八時マテトシ其ノ間ニ取扱ヒタル事項ハ夫々適宜ノ處分ヲナスヘシ

土曜日ノ宿直ハ午後二時ヨリ翌日午前八時マテトシ日曜日其ノ他ノ休日ニアリテ

ハ午前八時ヨリ翌日午前八時マテトス

○校醫服務規程

- 第一條 校醫ノ管掌スヘキ事項左ノ如シ
- 一 學校衛生ニ關スルコト
 - 二 身體検査ニ關スルコト
 - 三 自習寮附屬病室ノ整理ニ關スルコト
 - 四 生徒ノ疾病治療ニ關スルコト
- 第二條 校醫ハ休日ヲ除ク外毎日出校シテ一定ノ時限マテ服務スヘシ
急患者アルトキハ何時ニテモ出校スヘシ
- 第三條 毎年四月生徒ノ身體検査ヲナシ所定ノ身體検査表ヲ調製スヘシ
- 第四條 校醫ハ所定ノ生徒病類別患者月表及同年表ヲ調製シ月表ハ翌月五日、年表ハ翌年度四月十五日限リ提出スヘシ

- 第五條 病氣其ノ他ノ事故アリテ出校シ難キトキハ相當ノ代人ヲ出校セシムヘシ但シ代人ヲ出校セシムルトキハ其ノ氏名ヲ届出ツヘシ
- 第六條 衛生上ノ施設ニ關シテハ生徒監及會計課主任ト協議シ申告スヘシ

○處務細則

一、文書收受發送

- 第一條 本校ニ到達シタル文書ハ庶務課ニ於テ之ヲ收受シ親展書ノ外ハ庶務課主任之ヲ開封シ普通文書件名簿ニ登記シ本書ニ收受年月日及番號ヲ記入シ主掌分課ニ配付スヘシ
- 前項ノ文書中重要ト認ムルモノアルトキハ配付前校長ノ閲覽ヲ受クヘシ
- 親展文書中校長宛ノモノハ庶務課主任ヨリ直ニ校長ニ進達シ下付セラレタルトキハ之ヲ親展文書件名簿ニ登記シ本書ニ收受年月日及番號ヲ記入シ主掌分課ニ配付スヘシ其ノ他ノモノニ付テハ封ノ儘親展書交付簿ニ登記シ宛名ニ配付スヘシ

第二條 收受シタル文書中現金、金券又ハ物品ノ類ヲ添付セルモノハ文書件名簿ニ現金、金券又ハ何品添付ト付記スヘシ

第三條 發送ノ文書ニ添付スル現金、金券又ハ物品ノ類ハ文書件名簿ニ何々添付ト付記スヘシ

第四條 決裁済ノ文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ主掌分課ニ於テ之ヲ淨寫校合シ其ノ原議ヲ添ヘ庶務課ニ送付スヘシ

庶務課ニ於テ前項ノ文書ヲ收受シタルトキハ文書件名簿ニ登記シ發送ノ手續ヲナシ原議ニ番號ヲ記入シテ返付スヘシ

第五條 同一事件ノ往復ハ終始同番號ヲ用フヘシ

第六條 校印及校長印ハ庶務課主任之ヲ押捺スルモノトス但シ生徒ノ願、伺ニ對スル指令又ハ生徒ニ付與スル證明書等ハ庶務課主任ノ承諾ヲ得テ主掌分課主任之ヲ押捺スルコトヲ得

第七條 左ノ文書ハ庶務課ヲ經由セス主掌分課ニ於テ直接收受スヘシ

一、教務ニ關シ教官ヨリ提出スル報告書類

一、生徒ヨリ差出スル願、届書類

一、入學志願者受験名票

一、其ノ他校長ノ指定シタル書類

第八條 庶務課ニ郵便切手受拂簿ヲ備ヘ常ニ郵便切手、端書ノ受拂ヲ明瞭ニスヘシ

第九條 收發ノ文書中指令又ハ回答ヲ要セサルモノハ庶務課ニ於テ文書件名簿ニ「受切」又ハ「發切」ノ印ヲ捺シテ其ノ區別ヲ明カニスヘシ

第十條 處分濟ノ文書ハ速ニ庶務課ニ引繼クヘシ

第十一條 執務時間外至急ヲ要スル事件ニシテ本則ニ依ル違ナキモノハ便宜本則ノ手續ヲ省略スルコトヲ得但シ翌日(日曜休日等ノ場合ハ其ノ翌日)第一條ノ手續ヲナスヘシ

二、事務處理

第十二條 各課ニ於テ文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ處理スヘシ若シ速ニ處

理シ難シト認ムルモノハ其ノ事由ヲ具シ校長ノ承認ヲ受クヘシ

第十三條 稟議書ハ文意簡明、字劃明瞭ニ記載シ關係書類ハ悉皆添付シテ其ノ顛末ヲ明カニスヘシ

第十四條 事ノ輕易ナルモノハ本書ノ餘白ニ文案ヲ朱書シテ決裁ヲ受クコトヲ得

第十五條 處分ヲ要セサル文書ハ閱覽ニ供スヘシ

第十六條 他課ニ關聯スル文書ハ其ノ課ニ台議スヘシ

第十七條 事ノ例規ニ屬スル文書ハ庶務課ニ台議スヘシ

第十八條 校長不在ナルトキハ教頭、教頭亦不在ナルトキハ幹事其ノ事務ヲ代理ス

第十九條 校長不在中代理處理シタル事務ニシテ重要ト認ムルモノハ校長登校ノトキ閱覽ニ供スヘシ

三、文書編纂及保存

第二十條 文書ハ庶務課ニ於テ編纂保存又ハ廢棄スヘシ

第二十一條 文書保存ノ期限ヲ分ツテ左ノ三種トス

第一種 永久保存

第二種 五年間保存

第三種 一年間保存

第二十二條 保存期限ハ文書處理完結ノ翌年ヨリ起算ス但シ其ノ會計年度ニ屬スルモノハ決算終了ノ翌年度ヨリ起算ス

第二十三條 左ノ書類ヲ第一種トス

一、關係法令、本校規則、諸規程、諸細則等

一、高等學校長會議書類

一、本省ヨリノ通牒及往復文書ニシテ將來例證トナルヘキ書類

一、位勳、任免、賞罰及恩給、扶助等ニ關スル書類

一、一覽、年報、職員錄、事務歷、履歷書其ノ他統計及重要報告書類

一、教授會、評議員會其ノ他文部省ニ於クル教官會議書類

一、職員族籍換、改氏名及兵事等ニ關シ後證トナルヘキ書類

- 一、生徒名簿、在學證書、入學者名票及寫真等
- 一、特殊ノ處分又ハ事ノ創始若ハ廢止ニ關スル書類
- 一、學科成績表
- 一、生徒募集、賞罰、卒業、休學、退轉學、放校、除名、兵事、衛生、教員免許、學力、品行證明書等後證トナルヘキ書類
- 一、前各號ノ外將來照查ノ必要アリト認ムル書類
- 第二十四條 左ノ書類ヲ第二種トス
 - 一、職員、生徒ノ願、屆書類ニシテ數年保存ノ必要アリト認ムル書類
 - 一、職員、生徒ノ出缺調
 - 一、教科書
 - 一、授業時間割及試験問題
 - 一、前各號ノ外數年照查ノ必要アリト認ムル書類
- 第二十五條 左ノ書類ヲ第三種トス

- 一、一時期リノ諸願、屆書類
- 一、統計其ノ他製表ノ材料ニ供シタル書類
- 一、前各號ノ外第一種、第二種ニ屬セサル書類
- 第二十六條 文書ハ歷年ヲ以テ分界トシ處理完結ノ月日ヲ逐ヒ編纂スヘシ
- 第二十七條 處理完結ノ文書ハ各課ニ於テ保存期限等ヲ甄別シ其ノ年度、種別等ヲ記入シ庶務課ニ送付スヘシ
- 第二十八條 庶務課ニ於テ完結文書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ種別ヲ甄別シ第一種ノ文書ニハ卷首ニ索引ヲ付シ編纂スヘシ
- 第二十九條 文書編纂ヲ了リタルトキハ文書目錄ニ登記シ文庫ニ收藏スヘシ
 - 廢棄處分ニ付スル際ハ校長ノ決裁ヲ受ケ文書目錄ニ何年何月廢棄ト朱記シ官印ヲ塗抹シテ會計課ニ交付スヘシ
- 第三十條 文書ヲ借覽セムトスル者ハ借覽簿ニ其ノ書目冊數ヲ記入シ記名捺印シ其ノ返付シタルルハ借覽簿ニ消印スヘシ但シ借覽期限ハ五日ヲ超ユルコトヲ得ス

機密文書ハ校長ノ許可ヲ得タル者ニアラサレハ閱覽スルコトヲ得ス

○職員

(大正十二年十月三十一日現在)

學校長

文學士 小松 倍一 長野

教授

物理、自然科學、數學

文學士 川北 清三 重

獨語

文學士 高 島 喜市 石川

英 語

主 監 文學士 宮 野 景一 廣島

修身、獨語

教 徒 頭 文學士 菰 田 萬一 郎 千葉

圖 書

工 學 士 高 木 剛 三 東京

數 學

理 學 士 曾 我 部 忠 四 郎 德 島

獨語、哲學

文 學 士 高 橋 敬 視 宮 城

歷 史

生 徒 監 文學士 谷 田 民 夫 岡 山

獨語

文 學 士 大 本 琢 壽 岡 山

國語、作文

文 學 士 石 山 徹 郎 秋 田

獨語

文 學 士 小 林 松 次 郎 新 潟

植物、自然科學

理 學 士 古 海 正 福 岡

英 語

文 學 士 鳴 澤 寡 愆 新 潟

漢文、作文

文 學 士 佐 川 市 助 山 口

地質及礦物、自然科學

理 學 士 山 口 謙 次 佐 賀

化學、自然科學

理 學 士 井 口 直 次 郎 京 都

法制及經濟

法 學 士 福 本 和 夫 鳥 取

國語、作文

文 學 士 水 木 眞 弓 愛 媛

英 語

文 學 士 內 山 敬 二 郎 新 潟

心理、獨語

文 學 士 藤 井 章 福 井

獨制及經濟
英語
漢文、作文
歷史、地理
英語
數學
數學
動物學
化學
物理學
助教
物理學

法學士 加藤恂二郎 福井
文學士 深瀬基寛 高知
文學士 吉田義成 愛知
文學士 青山公亮 茨城
文學士 多田齊司 千葉
理學士 加藤平左工門 愛知
理學士 岩間綠郎 青森
理學士 田中庄造 滋賀
理學士 池田英苗 濱島
理學士 清水吉之助 東京
伊藤敬之助 茨城

僱外國人教師

獨語 講師
體操 陸軍歩兵中尉
體操 陸軍歩兵大尉
體操 陸軍歩兵中尉
體操 陸軍歩兵特務曹長
劍道 法學士
柔道 法學士
圖書 記

法學士(獨國) ウイルヘルム、ブラーゲ
ライヘン
三島歎二郎 島根
永田家三 島根
足立享 島取
鹿島健吉 島取
蘆田長一 島根
澤田義男 島根
草光信成 島根
新島藤作 新潟
矢島熙 島根

										雇員											
										助手											
										兼雇											
廣江直義	三島克己	渡部東二郎	野津忠芳	吉岡萬市	門脇俊夫	細田太米	和田精之助	金津良久	園山英悅	渡部愛之助	廣江直義	三島克己	渡部東二郎	野津忠芳	吉岡萬市	門脇俊夫	細田太米	和田精之助	金津良久	園山英悅	渡部愛之助
島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根	島根

學校醫 (囑託)

島根縣技師

										擔任教官																				
										學																				
										醫																				
										島根縣技師																				
川北清	高木剛三	曾我部忠四郎	佐川市助	宮野景一	古瀨久敬	葛西明	岩見孝義	恩田朝義	佐野清	川北清	高木剛三	曾我部忠四郎	佐川市助	宮野景一	古瀨久敬	葛西明	岩見孝義	恩田朝義	佐野清	川北清	高木剛三	曾我部忠四郎	佐川市助	宮野景一	古瀨久敬	葛西明	岩見孝義	恩田朝義	佐野清	
教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授

文科二年甲組
 文科二年乙組
 理科二年甲一組
 理科二年甲二組
 理科二年乙組
 文科一年甲組
 文科一年乙組
 理科一年甲一組
 理科一年甲二組
 理科一年乙組

事務分課
 教務課

教授	鳴澤	寡	愆
教授	小林	松次郎	
教授	吉田	義成	
教授	內山	敬二郎	
教授	藤井	章	
教授	水木	直弓	
教授	青山	公亮	
教授	古海	正福	
教授	山口	鎌次	
教授	大本	琢壽	

教頭

生徒監

生徒課

生徒監

主監

圖書課

教授	菺田	萬一郎
書記	渡部	愛之助
書記	渡部	東二郎
教授	谷田	民夫
講師	三島	歡二郎
講師	永田	家三
講師	足立	亭
講師	鹿島	健吉
書記	園山	英悅
書記	和田	精之助
教授	宮野	景一

庶務課

(兼)書記 渡部愛之助
助手兼履 三島克己

履 門脇俊夫

履 吉岡萬市

會計課

書記 矢島熙

會計課

書記 新島藤作

書記 金津良久

履 細田太米一

履 野津忠芳

○前職員

(備考、履員、助手等ハ略)

前官職	轉退年月	摘要	姓名
教授	大正十一年三月	轉任	文學士 佐藤廣治
教授	大正十二年三月	轉任	文學士 堀重里
教授	大正十二年四月	轉任	理學士 內藤珍磨
教授	大正十二年六月	轉任	文學士 武田雄三

○生徒

(大正十二年十月三十一日現在)

一、氏名

○印ハ組總代

第三學年

文科甲組

(三十六人)

松	出身中學	氏	原籍	松	出身中學	氏	原籍
江	○青戸精一	島根		江	犬塚正敏	佐賀	

明道	杵築	平安	長野	宮崎	三田	松江	廣島	第二神戶	三豐	宮津	富岡	倉吉
勝矢和三	河野敏夫	河野義宣	○大國泰一	岡澤進	大須賀健彦	太田俊行	江藤陽一	内海武尾	請川健藏	糸井一	池内均一	伊藤儀一
廣島	島根	島根	島根	宮崎	京都	島根	廣島	兵庫	香川	京都	德島	鳥取
鳥取	岡山	第一神戶	粉河	立教	市岡	東京第一	廣島	杵築	第二神戶	松江	京都第二	愛知第五
中島俊藏	中尾武彦	出水春三	辻熊三	田中洋三	俵倫一	俵精一	杉野薰	鹽野誠一	志賀平左右	近藤英明	木戸吉備夫	片岡勇三郎
鳥取	大阪	兵庫	和歌山	岡山	大阪	島根	廣島	島根	廣島	島根	京都	愛知

福山	伊丹	第二神戶	松江	京都第一	福井	姫路	京都第一	松江	松江	德島	京都第三
河相格治	川西巧一	大原俊三	大橋精一郎	遠藤參次郎	上野成榮	稻葉鹿之丞	明田米作	三島德逸	木村悅男	根井洸	西田良介
廣島	大阪	兵庫	三重	京都	福井	愛知	京都	島根	島根	宮崎	京都
市岡	京都第一	伊丹	津	脇町	桃山	京都第一	姫路	倉吉	龍野	倉吉	伊丹
高倉順次郎	柴田哲雄	佐藤佳三	酒井精一	小谷巨三郎	解良富太郎	金田源藏	片岡宗次	横山一良	横田靜造	妙泉宣正	道上清治
京都	京都	兵庫	三重	鳥取	新潟	京都	兵庫	鳥取	兵庫	鳥取	兵庫

文科乙組

(三十四人)

北野	竹田孝三	大阪	第一神戸	廣島敏行	兵庫
長崎	谷岡龍一	高知	松江	福浦喜代治	島根
堺	鳴戸要	大阪	松江	福本正人	鳥取
濱田	永見茂	島根	山口	堀八郎	島根
杵築	中島猪一郎	島根	伊丹	○森田右三郎	兵庫
京都第三	西野保	京都	第二神戸	山田直二	兵庫
杵築	錦織啓造	島根	杵築	矢田恒久	島根
鳥取	長谷川蔚	鳥取	姫路	○結城令聞	兵庫
松江	原田漸	島根	松江	渡邊新作	鳥取
立命館	○赤松新次郎	大阪	東筑	上野收藏	福岡
膳所	○市田武次	滋賀	今宮	岡本睦夫	大阪
松江	井上庸尾	島根	三田	大垣勳	兵庫

理科甲一組 (二十三人)

京都第一	小原喜太郎	京都	天王寺	田中耕三郎	大阪
同志社	岡本次雄	兵庫	修道	富田靖一	島根
津山	桐井潔	三重	松江	錦織英夫	島根
桃山	下江秀夫	大阪	鳥取	張間千繩	青森
松江	竹内穆隆	島根	杵築	濱崎諒	島根
姫路	高島良一	兵庫	松江	引野義夫	島根
鳥取	竹中要	兵庫	松江	引野義夫	島根
杵築	高橋勝太郎	島根	第一神戸	森山正雄	島根
北野	竹村信一	兵庫	森修巳	森修巳	兵庫
濱田	○青山彬	島根	仙臺	○砂澤盛	宮城
濱田	淺野好	島根	大村	磯部義彦	石川
津	淺井元貞	廣島	伊丹	今里清	兵庫

理科甲二組 (二十五人)

第二學年

關	上	龍	豐	杵	濱	東京第一	桃	高	濱	宮	岡
四	宮	野	岡	築	田	第一	山	梁	田	津	山
土	富	土	杉	佐	串	梶浦毅四郎	○笠島榮次	上	江	岩	○岩
岐	田	屋	本	藤	崎	俊郎	榮次	村	村	城	藤
龍	昇	敏	信	幹	俊	郎	次	省	正	道	良
三	島	正	行	島	島	愛媛	大阪	三	志	也	秋
岡	根	兵	兵	根	根	媛	阪	岡	島	石	岡
山	根	庫	庫	根	根	媛	阪	山	根	川	山
廣	育	宮	桃	姪	中	飯	松	龍	杵	岡	杵
陵	英	津	山	路	津	田	江	野	築	山	築
米	山	森	右	三	榊	本	福	福	錦	長	永
川	尾	秀	田	木	田	堂	間	本	織	尾	松
義	光	齊	芳	良	英	義	三	久	修	康	藏
郎	正	登	登	定	一	明	德	兵	藏	夫	十
廣	鳥	京	大	兵	郎	長	島	庫	島	岡	郎
島	取	都	阪	庫	大	野	根	庫	根	山	島
					分						根

杵	宮	松	松	松	高	濱	鳥	濱	福	京	松
菜	崎	江	江	江	師	田	取	田	山	都	江
石	荒	富	田	多	關	杉	眞	小	片	川	加
飛	木	村	野	久	勇	本	田	谷	山	島	藤
靜	周	精	清	和	東	一	幸	誠	忠	喜	一
島	一	雄	男	盛	京	郎	恒	一	明	一郎	豫
根	宮	島	島	島	東	島	鳥	鳥	廣	京	島
	崎	根	根	根	京	根	取	根	島	都	根
鳥	濱	小	米	鳥	松	第	倉	臺	米	東	東
取	田	野	子	取	江	一	吉	北	子	京	京
石	岩	和	山	安	森	村	前	林	沼	永	永
賀	本	田	根	田	脇	上	田	原	田	廻	廻
朗	嘉	榮	武	欣	達	一	一	英	盛	登	登
鳥	文	太	雄	治	夫	雄	男	夫	平	島	島
取	島	郎	鳥	鳥	鳥	岡	鳥	鳥	鳥	根	根
	根	兵	取	取	根	山	取	取	取		
		庫	取	取	根						

理科乙組

(二十八人)

文科甲組

(三十八人)

松	杵	日	松	杵	宮	京都第一	姫	倉	北	修	鳥
江	築	本	江	築	津	第一	路	吉	野	猶	取
安	○今	岩	岩	伊	糸	宇	梅	宇	尾	尾	奧
達	岡	崎	崎	藤	井	田	谷	佐	池	形	谷
武	雄	金	修	幸	深	直	正	美	剛	敏	信
夫	島	一	島	三	藏	寬	夫	勇	一	行	行
島	根	郎	根	郎	都	京	兵	藏	兵	鳥	鳥
根	根	東	根	島	都	都	庫	鳥	庫	取	取
松	松	第	松	柏	松	杵	明	廣	松	松	松
江	江	二	江	原	江	築	治	島	江	江	江
河	川	神	楠	後	小	坂	笹	坂	澤	○田	永
口	上	戶	本	藤	林	本	川	本	野	代	岡
善	英	一	龍	吉	駿	敬	麟	本	敏	稔	孝
八	一	島	太	五	也	一	太	本	行	島	二
島	根	根	郎	郎	兵	島	郎	廣	島	根	島
根	根	兵	兵	庫	庫	根	東	島	根	根	根
根	根	庫	庫	庫	庫	根	京	島	根	根	根

文科乙組

(三十五人)

東	堺	第二	豐	北	第三	第二	濱	濱	濱	濱	慶
山	神	神	岡	野	京	神	野	野	野	野	應
長	濱	平	平	平	細	丸	○岩	石	石	石	江
野	崎	井	位	藏	野	岡	本	川	川	川	藤
壯	勝	知	平	修	春	輝	七	義	義	義	豪
平	夫	加	八	修	次	次	郎	明	明	明	一
島	大	夫	郎	大	京	兵	島	香	香	香	廣
根	阪	廣	兵	阪	都	庫	根	川	川	川	島
成	市	都	宮	曉	和	小	松	市	市	市	開
城	岡	城	崎	星	歌	松	江	岡	岡	岡	成
松	森	持	山	吉	若	渡	岡	岡	岡	岡	○河
本	田	田	本	田	林	邊	田	田	田	田	村
健	勝	堯	友	正	昇	茂	昇	昇	昇	昇	宏
一	治	雄	博	正	太	茂	三	三	三	三	彌
郎	治	宮	宮	東	郎	東	島	島	島	島	岡
鳥	大	崎	崎	京	和	京	根	根	根	根	山
取	阪	崎	崎	京	歌	京	根	根	根	根	山
取	阪	崎	崎	京	山	京	根	根	根	根	山

成	京都第一	第一神戶	腦町	宮津	第一神戶	京都第三	米子	早稻田	桃山	杵築	松江	松江
武	田島	竹内	莊村	下村	坂西	鶴鷓	佐中	洪耀	小松	桑門	貴谷	門脇
内	島	内	村	村	西	鷓	中	耀	松	門	谷	脇
仁	晋	孝	義	鐵	新	英	壯	動	才	勇	雄	三
雄	高	岡	大	京	兵	一	鳥	臺	吉	島	吉	郎
知	都	山	阪	都	庫	岡	取	灣	阪	根	根	根
松	正	市	大	松	米	京都第一	鴻	姬	福	京	早	
江	則	岡	洲	江	子	城	城	路	山	都	稻	
渡	山	山	松	增	松	前	深	府	西	中	鶴	
部	田	崎	井	田	下	田	田	川	本	村	為	
善	五	八	一	涉	利	行	從	功	辰	章	彦	
信	郎	十二	衛	涉	雄	藏	二	功	治	一	京	
島	鹿	大	廣	島	鳥	京	大	兵	和	大	東	
根	兒	阪	島	根	取	都	分	庫	歌	阪	京	
	島								山			

第一神戶	倉吉	田邊	松江	畝傍	東濃	日本	松江	同志社	愛知第五	倉吉
久島	龜井	神田	加納	樫根	小栗	大橋	井上	入江	蘆澤	明里
豐	政	田	納	根	栗	橋	上	江	澤	里
明	之	惠	儉	英	一	義	鴻	辰	美	巖
兵	助	治	二	郎	好	平	太	雄	之	鳥
庫	鳥	京	島	奈	岐	柄	島	京	山	取
	取	都	根	良	阜	木	根	都	梨	
津	伊	倉	矢	豐	豐	京都第三	京都第三	福山	福山	畝傍
	丹	吉	掛	岡	岡	三	三	山	山	野
○	長	中	千	田	田	田	田	○	佐	黑
並	尾	井	原	野	中	口	香	末	分	田
川	泰	秀	隆	龍	馨	三	苗	久	利	留
安	藏	雄	三	三	兵	郎	京	三	猪	一
幸	兵	鳥	岡	兵	兵	京	都	男	之	郎
高	庫	取	山	庫	庫	都	都	高	介	兵
知								知	廣	庫
								島	島	

理科甲一組 (四十二人)

和歌山	倉吉	宇治山田	米子	新宮	第一神戸	米子	天王寺	第二神戸	松江	上宮	第二神戸
○池田静夫	相見史郎	松田健壽	松本義人	松野三郎	松岡雄三	原本博真	橋川保	萩野勝夫	西代頼	中田敏哉	中川長武
和歌山	島根	三重	鳥取	和歌山	山口	島根	大阪	兵庫	島根	島根	兵庫
倉吉	順天	富田	今宮	鴻城	豊浦	松江	濱田	伊丹	東京	第二神戸	森川安次
磯江景敏	伊藤政助	渡部猛	渡邊佐一郎	龍道雄	吉田稻雄	湯淺幸雄	齋田安	八尾平治郎	諸井英一	静岡	兵庫
鳥取	北海道	三重	京都	福岡	東京	島根	島根	大阪	靜岡	兵庫	

理科甲二組 (四十人)

京城	津	松江	堺	岡山	鳥取	倉吉	宮崎	豊岡	北野	濱田	秋	横濱
黒岩鷺	久保俊夫	○北垣義房	川本猪三郎	鎌田洋一	河越太郎	沖田一	小倉健夫	岡藤哲三郎	江村俊吉	石田省吾	乾讓太郎	井上義一
福岡	三重	島根	大阪	福岡	鳥取	鳥取	東京	兵庫	山口	島根	奈良	新潟
錦城	京都第一	耐久	眞宗勸學院	松江	嘉穂	市岡	松江	第一神戸	第二神戸	小野	樟太	天王寺
松本小次郎	藤繩啓太郎	橋本峯三	中川英	永江秀雄	永光利	筒井一良	田代喬	高階有次	高橋貞雄	瀨渡義一	鈴木邦臣	篠崎侑一
京都	富山	和歌山	三重	島根	福岡	大阪	島根	兵庫	長野	兵庫	廣島	京都

津山	杵築	育英	松江	水海道	姫路	五條	宮崎	野澤	廣島	福山	宮崎
太田潤	岡田安太郎	梅津隆好	飯尾勝海	今村春三郎	井上和	足立勳	矢野虎雄	宮澤亮	見谷英夫	三藤正路	松浦進
岡山	島根	鳥取	島根	茨城	兵庫	奈良	宮崎	長野	兵庫	廣島	宮崎
小野	五條	米子	伊丹	鳥取	興讓館	濱田	第二神戸	富田林	鳥取	松江	吳
上月與四郎	楠田敏明	國頭昇	河合郁二	太田健三	小田敬進	大屋善友	和田政雄	山本憲治	山田督	山崎稔	山中三郎
兵庫	奈良	鳥取	兵庫	兵庫	岡山	島根	兵庫	大阪	鳥取	鳥取	廣島

理科乙組 (三十七人)

廣陵	東濃	脇野	龍野	高松	米子	松江	愛知第四	田川	第二神戸	相馬	宇都宮
日高竹虎	林篤七	秦健雄	寺田軍二	筒井龍雄	○高島雅行	陶山義正	關本正	清水親義	白木祐治	莊司康	小林弘美
島根	岐阜	德島	兵庫	香川	鳥取	島根	愛知	福岡	兵庫	福島	栃木
松江	濱田	富山	豐岡	廣島	第二神戸	姫路	松江	今宮	崇德	東	兆
若林明文	山崎一雄	○桃井寛次	宮本一雄	水野和文	三上達郎	宮田次男	三宅等	松本毅	福岡博	大	廣島
島根	島根	富山	兵庫	廣島	島根	兵庫	德島	島根	大阪		

第一學年

文科甲組 (四十人)

濱田	金澤第一	濱田	彦根	東山	明善	曹洞宗第四	三次	丸龜	姫路	高梁	第二神戸
勝部幸彦	川島第二	岡本辰男	大橋三郎	小瀧彬	江藤知己	宇佐見賢雄	○今田良幹	石川正	井上庄吉	伊東厚坪	稻野良隆
島根	福井	島根	滋賀	島根	廣島	島根	廣島	香川	兵庫	岡山	兵庫
耐久	鳥取第一	杵築	松江	豐橋	上宮	京都第二	姫路	津	同志社	杵築	芝
玉置修	田寺篤雄	曾田達雄	角球三	坂名井深藏	佐藤聽春	○小牧孝雄	北島幹雄	岸本晃	川勝衛	河井義孝	片山容
和歌山	鳥取	島根	島根	愛知	大阪	京都	兵庫	岡山	京都	鳥根	鳥根

文科乙組 (四十人)

廣島第一	甲府	北野	米子	松江	熊本	宮崎	高輪	京都第一	臺南第一	大分	北
榎本春二	江間貞雄	今井謙順	足立久	細田菊雄	逸見重治	萩原四郎	野田孜	西村精一	並河亮	中村良作	多田辰雄
廣島	山梨	大阪	鳥取	島根	和歌山	宮崎	鳥取	滋賀	島根	廣島	東京
米子	濱田	米子	松江	松江	福知山	米子	松江	鹿兒島第一	東山	大垣	松江
岡田勇	大谷庸介	織田輝雄	大河内秀文	和田季義	依田哲郎	八橋惠樹	矢野俊男	山下定文	村田修造	松永文二	松尾通重
鳥取	鳥根	鳥取	東京	鳥根	兵庫	鳥取	鳥根	鹿兒島	山口	岐阜	鳥根

愛知第一	岡崎	太田貞康	龜井利一	榎根謙三	河合多紀夫	鳳鳴	京城	伊丹	明治	神戶第一	高梁	松江	濱田	姫路
利勝	宮崎	大阪	奈良	兵庫	福岡	岡山	福岡	岡山	和歌山	兵庫	岡山	島根	島根	兵庫
鳥取第一	田中貴右	○俵惠一郎	津田雲溪	中村章	丹生谷正一	和歌山	和歌山	彦根	松江	松江	福山	鳳鳴	京都第一	米子
鳥取	東京	大阪	大阪	山梨	島根	島根	島根	滋賀	島根	島根	廣島	鳥取	京都	鳥取

愛知第一	岡崎	太田貞康	龜井利一	榎根謙三	河合多紀夫	鳳鳴	京城	伊丹	明治	神戶第一	高梁	松江	濱田	姫路
利勝	宮崎	大阪	奈良	兵庫	福岡	岡山	福岡	岡山	和歌山	兵庫	岡山	島根	島根	兵庫
鳥取第一	田中貴右	○俵惠一郎	津田雲溪	中村章	丹生谷正一	和歌山	和歌山	彦根	松江	松江	福山	鳳鳴	京都第一	米子
鳥取	東京	大阪	大阪	山梨	島根	島根	島根	滋賀	島根	島根	廣島	鳥取	京都	鳥取

理科甲一組 (四十人)

米子	矢田貝顯造	鳥取
松江	米田勇次郎	鳥根
京都第二	吉田和雄	大阪
松江	太田茂吉	島根
松江	奧井廉	島根
松江	片山義雄	島根
北豫	鳥谷義信	愛媛
米子	久保田彦三	鳥取
松江	草光繁	島根
京都第一	佐藤博	京都
濱田	齋藤勝視	島根
大垣	澁谷真一	岐阜

萩	松	福	松	北	松	高	龍	天	關	松	新	修
江	江	井	江	京	江	津	野	王	西	江	宮	猷
今	今	伊	江	大	江	奧	岡	寺	學	加	加	木
岡	岡	東	角	谷	角	川	田	川	院	藤	見	下
英	英	勇	祥	嘉	祥	一	豪	那	○	英	壽	光
夫	夫	藏	藏	久	藏	助	一	部	勝	市	和	門
島	島	福	島	島	島	大	兵	治	兵	島	歌	福
根	根	井	根	根	根	阪	庫	良	庫	根	山	岡
海	松	濱	柏	北	早	高	大	成	甲	開	松	洲
草	江	田	原	野	稻	千	垣	蹊	陽	成	江	本
久	小	齋	齋	城	竹	恒	長	永	濱	日	引	藤
保	山	藤	藤	清	村	吉	屋	田	野	高	野	村
田	山	憲	武	清	勝	忠	和	龍	真	毅	英	清
岳	芳	章	之	大	衛	康	夫	之	兵	夫	夫	兵
三	輝	章	助	分	勝	康	夫	助	庫	夫	夫	庫
和	和	島	兵	兵	秋	愛	岐	奈	兵	島	島	兵
歌	歌	根	庫	庫	田	媛	卓	良	庫	根	根	庫
山	山	根	根	根	田	媛	卓	良	庫	根	根	庫

山	山	松	今	第	高	高	高	北	平	福	新
陽	陽	江	宮	一	津	梁	津	京	安	知	宮
青	青	西	友	神	谷	田	高	仙	菅	山	鹽
山	山	村	廣	戶	山	中	村	田	本	下	崎
六	六	豐	忠	高	孝	公	勝	昭	精	井	馨
藏	藏	彥	正	村	次	一	福	吉	然	武	馨
廣	廣	兵	岡	實	大	岡	井	東	島	夫	和
島	島	庫	山	兵	阪	山	京	京	根	愛	歌
青	青	角	松	松	豐	三	八	修	山	天	興
英	英	田	江	江	岡	豐	尾	道	口	王	讓
井	井	渡	吉	山	山	森	陸	○	堀	寺	館
上	上	邊	野	根	田	川	田	增	山	堀	藤
作	作	一	朗	精	正	正	菊	本	寅	田	井
治	治	郎	朗	一	澄	澄	太	實	太	秀	昇
兵	兵	宮	島	島	兒	香	郎	雄	山	次	平
庫	庫	城	根	根	兵	川	大	廣	口	廣	岡
					庫	川	阪	島	口	島	山

理科甲二組 (四十人)

松	西	豐	杵	鳥	濱	關	京	小	膳	瀧	福
江	條	浦	築	取	田	西	都	野	所	川	山
木	加	加	恩	岡	伊	宗	三	三	前	堀	星
村	藤	賀	田	田	藤	行	輪	宅	川	内	野
仁	乾	山	俊	俊	安	輝	榮	辰	一	俊	弘
明	一	昇	夫	雄	吉	雄	治	男	朗	彦	四
鳥	愛	山	鳥	鳥	鳥	兵	鳥	兵	滋	長	廣
取	媛	口	根	取	根	庫	取	庫	賀	野	島
富	山	松	福	三	杵	關	米	濱	龍	豐	育
岡	口	江	知	次	築	西	子	田	野	岡	英
庄	佐	坂	山	金	北	和	安	山	山	○	村
野	々	井	小	林	川	田	田	根	本	門	上
英	木	達	林	柳	義	長	正	寅	佳	間	潔
夫	秀	郎	哲	斤	重	治	明	一郎	夫	改	三
鳥	山	島	京	朝	島	鳥	鳥	鳥	兵	兵	鳥
島	口	根	都	鮮	根	取	取	根	庫	庫	取

理科乙組 (四十人)

米	姬	萩	鳥	嘉	明	忠	愛	岸	關	魚	同	千
子	路		取	穗	治	海	知	和	四	津	志	葉
錦	檜	中	中	永	土	富	鳥	津	○	高	○	田
織	崎	村	本	光	居	田	居	田	田	櫻	竹	中
雄	寅	俊	甫	軍	温	廉	龍	正	中	正	内	偉
吉	一	雄	鳥	一	良	三	馬	直	暢	雄	之	佐
鳥	兵	山	取	福	大	廣	愛	和	島	富	京	千
根	庫	口	取	岡	阪	島	知	歌	根	山	都	葉
今	京	七	明	宮	津	宮	廣	京	明	柏	福	小
宮	都	尾	道	津		津	島	都	道	原	山	野
吉	都	安	山	山	森	森	丸	丸	松	藤	東	服
宗	二	田	本	下	有	井	山	木	田	井	元	部
泰	第	廣	俊	民	隣	正	巖	正	武	信	樹	秀
次	二	石	衛	藏	三	路	廣	忠	一	次	廣	雄
大	第	川	山	京	重	京	島	京	郎	郎	庫	兵
阪	二	口	口	都	重	都	島	都	愛	兵	庫	庫
									媛	庫		

新	千	茨	栃	奈	三	愛	靜	山	滋	岐	長	宮	福	青	秋
潟	葉	城	木	良	重	知	岡	梨	賀	阜	野	城	島	森	田
一	一	一	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	二	二	二	七	八	六	一	三	五	五	四	二	一	一	一

鳥取第一 吉田 進 鳥取 今 治 渡邊政太郎 愛媛

二、學科別

大正十二年十月三十一日現在

道府縣	北 海 道	東 京	大 阪	兵 庫	第三學年	第二學年	第一學年	計							
					文 科	理 科	文 科	理 科	文 科	理 科	計				
					甲	乙	計	甲	乙	計	合	計			
					三六	三七	四〇	一一三	三四	三五	七〇	四八	二八	七六	一四六
					一〇	一〇	四〇	一〇九	四	三	八〇	八〇	四〇	一一〇	二〇〇
					一	一	一	二二	一	一	二二	二一	一〇五	三一六	五三八
					一	一	一	九	九	六	四	二	一	三	一
					二	二	二	一一	二	四	五	二	一	一	一
					二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
					一	一	一	七	六	三	三	一	一	一	一
					一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

佐	大	福	高	愛	香	德	和	山	廣	岡	島	鳥	富	石	福
賀	分	岡	知	媛	川	島	山	口	島	山	根	取	山	川	井
一	一	一	一	一	一	一	一	一	五	一	一七	八	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	五	二七	八	一	二	一
一	一	一	一	一	一	一	二	一	四	三	二〇	六	一	一	一
一	一	五	二	一	一	三	三	二	五	三	二一	二	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	三	一	五	四	二三	一〇	一	一	一
一	一	二	一	六	二	一	六	五	九	三	二八	一〇	一	一	二
一	四	〇	四	七	六	五	一五	八	三一	一九	二三五	五四	三	四	四

宮	鹿	臺	朝	總
兒	灣	鮮	計	
島				
崎				
二	一	一	一	七〇
一	一	一	一	七六
二	一	一	一	七三
二	一	一	一	一一九
二	一	一	一	八〇
一	一	一	一	一二〇
九	一	一	一	五三八

四、年 齡 別

大正十二年十月三十一日調

學	年	最	高	年	最	低	年	平	均	年	齡
文	科	文	科	文	科	文	科	文	科	文	科
第一學年	二四・二	二五・二	一六・七	一六・七	一九・四	一九・七					
第二學年	二七・〇	二七・七	一七・五	一七・七	二〇・三	二〇・九					
第三學年	二四・四	二七・一	一九・二	一八・九	二一・〇	二一・一					

五、在 學 中 死 亡 者

大正十二年十月三十一日調

入 學 年 月	死 亡 年 月 日	科 學 年 組	氏 名	本 籍
大正十年四月	大正十年九月	理科一年甲二組	中澤 費一郎	京都
大正十年四月	大正十一年九月	文科二年甲組	長谷川 亮詰	兵庫
大正十一年四月	大正十一年十月	理科一年乙組	森崎 忠徹	兵庫

大正十年四月	大正十二年三月	理科二年甲一組	仙田忠夫	島	根
大正十二年四月	大正十二年九月	理科一年乙組	宮軒寅治郎	奈	其
大正十一年四月	大正十二年十月	理科二年甲一組	石原理雄	島	根

○關係法令

一、高等學校令 大正七年十二月 勅令第三百八十九號

- 第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス
- 第二條 高等學校ハ官立、公立又ハ府立トス
- 第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス
- 第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五拾萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

- 基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ
- 第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス
- 高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得
- 第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス
- 第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス
- 專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得
- 專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ

第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者

タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料、入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス
前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス
高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

二、高等學校規程(抄) 大正八年三月
文部省令第八號

第一章 學科課程及教科書

第一節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、
地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス
高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、
化學、植物及動物、鑛物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス
外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬

行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ
智徳ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般
ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟
セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ
得シメ兼テ智徳ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條 歴史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシ

メ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史、東洋歴史及西洋歴史ヲ授クヘシ

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ知識ヲ授クヘシ

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル知識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ

第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛鍊セシムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ代數、立體幾何、三角法、初等解析幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授クヘシ

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學及有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

鑛物及地質ハ鑛物ノ産狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル知識ヲ授ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條 圖書ハ形體ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖書ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道及柔道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	二	五	四
地理			
哲學概說			三
心理及論理		二	二
法制及經濟		二	二
數學	三		
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	二九 (CHIN)	二九 (CHIN)	二八 (CHIN)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志

望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		一一	一〇	一〇
第二外國語		(三)	(三)	(三)
計		(三一) (三四)	(三) (三四)	(三) (三四)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身		一	一	一
國語及漢文		四	二	六
第一外國語		八	六	六
第二外國語		(四)	(四)	(四)

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
數學		四	四	(四)
物理學			三	講義三 實驗三 五
化學			三	講義三 實驗三 五
植物及動物		二	二	講義二 實驗二 四
礦物及地質		二		
心理			二	
法制及經濟		二		
圖畫		二	二	(二)
體操		三	三	三
計		(三二) (三二)	(三二) (三二)	(三二) (三二)

第三學年ノ數學(二)及圖畫(二)ト第三學年ノ植物及動物(講義二實驗二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス
第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		一〇	九	九
第二外國語		(三三)	(三三)	(三三)
計		(三三)	(三三)	(三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第三節 專攻科

第二十一條 專攻科ノ學科目ハ左ノ學科目中ヨリ便宜選擇シテ之ヲ定ムヘシ
 國語、漢文、支那時文、外國語、史學、哲學、倫理學、社會學、法律學、政治學、經濟學、數學、物理學、化學、植物學、動物學、礦物學、地質學、天文學、氣象學、應用化學、機械工學、實業ニ關スル科目等

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ旨趣ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國

民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス

各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上高等科ニ在リテハ每學年二百日以上專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事

情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス試験及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 紀元節、天長節祝日及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編 制

第二十八條 尋常科ニ於テ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ中學校ニ關スル規定ヲ準用ス

高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外文部大臣ノ認可ヲ受ケ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十九條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ教員數並專任教員及兼任教員ノ割合ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第三十條 公立又ハ私立ノ高等學校高等科ニ於テ劍道又ハ柔道ノ教授ヲ擔任スル教員ハ前條ノ定數外トス

第四章 設 備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舍ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本室等ヲ備フヘシ

校舍ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フヘシ

- 一、學則、日課表及教科用圖書配當表
- 二、職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表

三、生徒學籍簿、出席簿、身體檢查ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵猶豫ニ關スル書類

四、試験ノ問題、答案及成績表

五、資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本、模型ノ目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試験ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第五章 設立及廢止

第三十六條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ設立ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一、名稱

二、高等學校令第七條ノ事項

三、學則

四、各科ノ生徒定數

五、位置及校地

六、校舍ノ圖面及建設ノ設計

七、開校ノ期日

八、經費及維持ノ方法

前項第五號ニ關シテハ校地ノ地質及面積竝附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ

第一項各號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ廢止ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第三十九條 當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタルモノハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ尋常科ニ入學セシムヘシ

第四十條 他ノ高等學校又ハ中學校ノ豫科ヲ修了シタル者及高等學校ニ於テ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ行フ試験ニ合格シタル者ハ尋常科ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數尋常科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ尋常小學校卒業ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ

第四十一條 尋常科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニヨリテ之ヲ檢定スヘシ

第四十二條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタルモノハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ高等科ニ入學セシムヘシ

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

- 一、他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者
- 二、高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
- 三、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
- 四、文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
- 五、文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル試験ニ

依リテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ無試験檢定ヲ行ヒテ入學者ヲ定ムルコトヲ得

第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ體格檢査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ限リ入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ終了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ
前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル時ハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル高等學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限リ試験ニ依ラサルコトヲ得

第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第四十九條 高等學校尋常科ト中學校トノ相當學年相互ノ間ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ成績ノミヲ考査シテ之ヲ定ムルコトヲ得
試験ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ、專攻科ヲ卒業シタル者ニハ得業證書ヲ、尋常科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三、引續キ一年以上缺席シタル者
- 四、正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
- 五、出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 豫科

第五十七條 高等學校ノ豫科ニ關シテハ中學校ノ豫科ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第八章 雜則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一、學年、學期及休業日ニ關スル事項

- 二、學科課程、教授時數ニ關スル事項
 - 三、課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
 - 四、生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項
 - 五、授業料、入學料等ニ關スル事項
- 第五十九條 私立ノ高等學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等學校大學豫科ニ在學スル生徒ニシテ大正十年八月三十一日マテニ卒業セサルヘキモノハ之ヲ高等學校高等科ノ相當學年ニ編入ス

高等中學校規程、明治四十一年文部省令第九號高等學校大學豫科入學者無試驗檢定規程及高等學校大學豫科入學者選拔試驗規定ハ之ヲ廢止ス

三、文部省直轄諸學校官制(抄)

三治二十六年八月
勅令第八十六號

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

東京高等師範學校	廣島高等師範學校	東京女子高等師範學校	奈良女子高等師範學校
盛岡高等農林學校	鹿兒島高等農林學校	上田蠶絲專門學校	東京高等蠶絲學校
京都高等蠶業學校	鳥取高等農林學校	三重高等農林學校	宇都宮高等農林學校
神戸高等商業學校	長崎高等商業學校	山口高等商業學校	小樽高等商業學校
名古屋高等商業學校	福島高等商業學校	大分高等商業學校	彦根高等商業學校
和歌山高等商業學校	第一高等學校	第二高等學校	第三高等學校
第四高等學校	第五高等學校	第六高等學校	第七高等學校造士館
第八高等學校	新潟高等學校	松本高等學校	山口高等學校
松山高等學校	水戸高等學校	山形高等學校	佐賀高等學校
弘前高等學校	松江高等學校	東京高等學校	大阪高等學校
浦和高等學校	福岡高等學校	靜岡高等學校	高知高等學校
富山藥學專門學校	東京高等工業學校	大阪高等工業學校	京都高等工藝學校

名古屋高等工業學校	熊本高等工業學校	米澤高等工業學校	相生高等工業學校
橫濱高等工業學校	廣島高等工業學校	金澤高等工業學校	仙臺高等工業學校
明治專門學校	東京高等工藝學校	神戸高等工業學校	濱松高等工業學校
德島高等工業學校	秋田鑛山專門學校	神戸高等商船學校	東京外國語學校
大阪外國語學校	東京美術學校	東京音樂學校	東京盲學校
東京聾啞學校			

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
教授
生徒監
助教
書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督

ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ専ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若ハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

四、文部省直轄諸學校職員定員令抄

明治三十五年三月 勅令第九十九號

文部省直轄諸學校專任教員ノ定員左ノ如シ

松江高等學校	校長	一人	教授	三十人	教諭	五人	助教	五人	助教諭	五人	訓導	五人	保母	五人	助手	五人	書記	六人
--------	----	----	----	-----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

大正十二年四月勅令 第百六十一號ヲ以テ 改正

五、文部省直轄諸學校長職務規程

官秘一三三號改正 (大正九年八月二十五日)

第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得

第二條 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ

第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト

第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト

第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト

第四 教官以下ノ内國各地出張ニ關スルコト

第五 教官以下ノ除服出仕、請假ニ關スルコト

第六 講師ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト

第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト

第八 三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト

第四條 前條ニ掲ケタル事項ノ外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

六、文部省直轄諸學校名譽教授ニ關スル件 大正三年六月
勅令第四百二十四號

文部省直轄諸學校ノ教育ニ付功勞顯著ナル者ニハ文部大臣ノ奏薦ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトヲ得

七、官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程

大正八年四月文部省令第十
四號(大正十年十一月文部
省令第四十五號改正)

第一條 入學志願者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數、選拔試驗ニ關スル細目及出願ノ手續等ハ其ノ都度文部大臣之ヲ告示ス

第三條 選拔試驗ノ學科目ハ中學校第四學年マテノ必修學科目中ニ就キ之ヲ選定ス但シ外國語ハ英語、獨語及佛語ノ中本人ヲシテ其ノ一ヲ選ハシム

前項ノ試驗ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル

第四條 選拔試驗ハ各高等學校同時ニ之ヲ行フ

第五條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科及類ヲ指定スヘシ

指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

- 文科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
- 文科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
- 文科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ
- 理科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
- 理科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
- 理科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ

選拔試驗ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類二箇以上(同一科内ノ類ニ限ル)ヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限リ佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科丙類又ハ理科丙類ニ限ル

第六條 入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

- 一、各高等學校ニ於テ各科毎ニ其ノ科ニ入學セシムヘキ人員ノ總數ト同數ノ人員ヲ試験ノ成績順ニ依リ選出ス
 - 二、前號ノ場合ニ於テ試験成績相同シキトキハ抽籤ニ依ル
 - 三、前二號ニ依リ選出セル人員ニ就キ試験ノ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第一ノ志望類ニ配當ス
 - 四、前號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル第一ノ志望類既ニ滿員トナリタル場合ニ於テハ更ニ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第二以下ノ志望類ニ配當ス
 - 五、本人ノ指定スル類悉ク滿員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得サルモノトス
- 前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲入學者ニ缺員ヲ生シタルトキハ入學スルコトヲ得サリシ者ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ依リ之ヲ補填ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

八、高等學校高等科入學資格試験規程

大正八年三月
文部省令第九號

- 第一條 高等學校規定第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試験ヲ受ケントスル者ハ年齢滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全、品行方正且現ニ中學校ニ在學セサル者タルヘシ
- 第二條 高等學校高等科入學資格試験ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ
- 第三條 試験ハ中學校第四學年マテノ必須各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ
- 第四條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付スヘシ
- 第五條 高等學校高等科入學資格試験ノ問題、答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ
- 第六條 中學校ニ於テハ本令ノ試験ニ付試験手数料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

九、專門學校入學者檢定規程

明治三十六年三月
文部省令第十四號

第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ此規程ニ依リ檢定ヲ受クヘキモノトス

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一、年齢男子ハ滿十七年以上女子ハ滿十六年以上ナルコト

二、身體健全ナルコト

三、品行方正ナルコト

四、現ニ中學校若ハ高等女學校ニ在學セサルコト

第三條 檢定ヲ分テ試験檢定、無試験檢定ノ二トシ試験檢定ハ官立、公立ノ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試験檢定ハ當該專門學校ニ於テ生徒入學ノ際之ヲ行フ

第四條 試験檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業ノ程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セ

サルコトヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ニ合格シタル者ニハ試験檢定合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ノ問題、答案及成績表ハ五箇年以上保存スヘシ

第七條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ハ試験檢定手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 在ニ掲クル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得
一、文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者

十、高等學校高等科學力檢定規程

大正十年十一月
文部省發專一三六號

第一條 高等學校高等科學力檢定試験ハ帝國大學學部又ハ官立大學ヨリ其ノ入學志願者ノ學力檢定試験施行ノ通告アリタル場合ニ限り高等學校ニ於テ施行ス
試験ハ二月ニ於テ之ヲ施行ス

第二條 試驗ハ高等學校高等科卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

高等學校高等科ニ入學スル資格ヲ有セサル者ニハ先ツ中學校第四學年迄ノ必修各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依ル學力檢定試驗ヲ行フヘシ

第三條 試驗ヲ受ケントスル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

既納ノ受験料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第四條 試驗ニ合格シタル者ニハ左式ノ證明書ヲ交付スヘシ

(證明書書式略)

十一、文部省直轄學校外國人特別入學規程

明治三十四年十一月
文部省令第十五號

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス所定ノ學科ノ

一科若ハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省、在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添ヘ帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限り之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニ

アラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ニハ試驗ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試驗料、入學料及授業料ヲ徴收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

附 則

第七條 本令施行ノ際文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス在學スル外國人ハ本令ニ依リ入學シタルモノト看做ス

第八條 明治三十三年文部省令第十一號文部省直轄學校外國委託生ニ關スル規程ハ

本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

十二、外國人特別入學規程ヲ臺灣及朝鮮人ニ準用

明治四十四年四月
文部省訓令第十六號

文部省直轄學校外國人特別入學規程ハ臺灣人若ハ朝鮮人ニ之ヲ準用ス但シ其ノ入學ニ關シテハ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介ヲ要ス

十三、文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受ケタル

明治三十八年十月
文部省令第十八號

他ノ直轄諸學校入學試驗無効ニ關スル規程
文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試驗ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試驗ハ無効トス

十四、雇外國人使用ニ關スル規程

明治二十六年九月
勅令第九十六號

帝國大學、官立大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長、官立大學長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

○附 錄

校友會會則

第一條 校友會ハ本校ノ教養ト相俟ツテ會員ノ智德ヲ磨キ體育ヲ勵ミ以テ相互ノ交誼ヲ厚クシ醇良ナル校風ヲ作興セムコトヲ期ス

第二條 本會ハ通常會員(本校生徒)、特別會員(本校職員)ヲ以テ之ヲ組織ス但シ本校卒業生其ノ他本校ニ縁故深キ者ハ特ニ之ヲ贊助會員トスルコトヲ得

第三條 本會ニ左ノ各部ヲ置ク

文藝部 講演部 野球部 庭球部 端艇部 水泳部 劍道部 柔道部
弓術部 旅行部 競技部 蹴球部

第四條 會員ハ各部員タルコトヲ得

第五條 各部規約ハ其ノ部ニ於テ之ヲ定メ會長ノ認可ヲ經ヘシ

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、會長一名、學校長ヲ推戴ス、會務ヲ總理ス
 - 二、理事長一名、特別會員ニツキ會長之ヲ委囑ス、庶務會計ヲ管理ス
 - 三、部長、各部一名、特別會員ニツキ會長之ヲ委囑ス、理事長ト協議ノ上當該部ノ事務ヲ管理ス
 - 四、理事、文科、理科各一名、通常會員ノ互選ヲ經會長之ヲ委囑ス、庶務ノ常務ニ任ス
 - 五、委員、各部若干名、通常會員ノ互選ヲ經會長之ヲ委囑ス、當該部ノ常務ニ任ス
 - 六、書記二名、本校書記ニツキ會長之ヲ委囑ス、庶務、會計ノ常務ニ分任ス
- 第七條 部長、理事及委員ノ任期ハ一箇年トス
- 第八條 本會ノ會費、入會金等左ノ如シ
- 通常會員ニアリテハ一學年金拾貳圓トシ各學期授業料ト共ニ分納スヘシ

特別會員ハ毎年一定額ヲ釀出ス

通常會員ハ入會ノ際會費ト共ニ入會金參圓ヲ納ムヘシ

通常會員ハ選手派遣費及端艇新造基金トシテ每年金參圓ヲ各學期校友會費ト同時

ニ分納スヘシ

既納ノ會費、入會金等ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第九條 本會ノ經費ハ前條ノ收入ヲ以テ支辨ス寄附ハ之ヲ受ケサルモノトス

但シ特別ノ場合ハ役員會ノ審議ヲ經テ之ヲ受クルコトアルヘシ

第十條 本會ノ豫算ハ豫算會議ノ議ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

第十一條 豫算會議ヲ分チテ左ノ二トス

- 一、豫算查定會議、會長、理事長、理事ヲ以テ組織ス
- 二、豫算總會議、會長、理事長、部長、理事、委員(各部二名)、組代議員(各組一名)ヲ以テ組織シ豫算查定會議ノ作製シタル豫算案ニ基キテ當該年度ノ豫算ヲ議定ス

第十二條 重要ナル會務ニ付キテハ會長ハ隨時役員(書記ヲ除ク)ヲ召集シテ其ノ議ニ付スヘシ

定足數ハ議員ノ三分ノ二トシ表決數ハ過半數トス

第十三條 本會ノ會計年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ルモノトス

第十四條 毎年度歳入總額ノ百分ノ五以上百分ノ十以内ノ豫備費ヲ設クヘシ

第十五條 歳入出決算報告ハ理事長、理事ノ審査ヲ經テ次年度ノ初ニ於テ發表スルモノトス

第十六條 本會會則ノ變更ハ會長、理事長、部長及各組代議員各三名ヨリナル會議ノ議ヲ經ルヲ要ス

定足數ハ議員ノ三分ノ二トシ表決數ハ出席議員ノ三分ノ二トス

第十七條 前條ノ發案ヲナスニハ會員十名以上ノ賛成アルヲ要ス

役員氏名

會長	小松校長	柔道部長	山口教授
理事長	菟田教授	弓術部長	川北教授
文藝部長	鳴澤教授	水泳部長	宮野教授
講演部長	加藤(恂)教授	旅行部長	古海教授
庭球部長	深瀬教授	競技部長	高木教授
野球部長	曾我部教授	蹴球部長	三島講師
端艇部長	藤井教授	書記	新島書記
劍道部長	谷田教授	書記	矢島書記

松江高等學校一覽終

大正十二年十一月十日印刷
大正十二年十一月廿日發行

(非賣品)

松江高等學校

松江市外川津村
(電話一九六番)

印刷者 松江市天神町四十番地 秦 慶之助
(電話三六六番)

印刷所 松江市殿町三百八十三番地 松陽新報社
(電話三三三番)
(電話三六九番)



283
別庫
33

終

